



インフロニア・ホールディングス  
24年3月期 第2四半期アナリスト向け決算説明会

Nov 10, 2023

# 24年3月期 第2四半期 決算説明会 目次

## 本編

1. 決算のポイント
2. インフロニアの成長戦略：総合インフラサービス企業の実現
3. インフロニア・ホールディングスの業績数値の推移
4. 決算の概要
5. セグメント別 売上高・利益の内訳
6. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移（建築、土木セグメント）
7. 資本戦略・還元方針／FY23 2Qの実績と見直し
8. 連結貸借対照表の主な増減要因
9. 一般管理費の増減の主な要因
10. 資本戦略と株価の推移
11. グループ従業員への当社株式の給付について
11. 舗装セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田道路 連結）
12. 舗装セグメント 受注高、売上高、売上総利益の推移（前田道路 連結 建設事業）
13. 舗装セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田道路 連結 製造販売事業）
14. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田製作所 連結）
15. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田製作所 連結）
16. トピックス：持続可能な森林整備と木材活用に向けた魅力ある製品の市場導入

## セグメント別ハイライト

1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移
2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移
3. 建築セグメント 建物用途別 国内受注比率の推移
4. トピックス：「大型民間案件への取組（再開発事業／大型オフィス）」
4. トピックス：「大阪万博への取組」
5. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移
6. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移
7. トピックス：「東京の上下水道事業の未来を担う長距離シールド工事を受注」
8. インフラ運営セグメント 利益貢献額について
9. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン（令和5年度改定版）が内閣府より公表
10. 国内の主なインフラ運営事業

## Appendix

IFRS移行スケジュールと移行に伴う主な変更点について

【個別】前田建設 FY23 2Q実績と通期計画

【連結】前田道路 FY23 2Q実績と通期計画

【連結】前田製作所 FY23 2Q実績と通期計画

主なグループ会社の FY23 2Q実績と通期計画

統合報告書2023 ～「総合インフラサービス企業」への着実な進化～  
「世界に誇る焼物の町の価値向上を目指し、包括連携協定を締結」  
セグメント分けの変更

インフラ運営事業（脱請負）のビジネスモデル

インフラ運営事業（脱請負）の新たな事業プラットフォームの構築

インカム・ファンドにおける第1号投資案件

インフラ運営セグメント「利益貢献額」と「セグメント利益」の違いについて

# 1. 決算のポイント

## ① FY23 2Qの決算総括 (P.5-8)

- FY23 2Q実績については、**前年同期比で大幅な増収増益**となった
- 通期計画についても、**期首計画を上方修正した**

## ② セグメント毎のFY23 2Q実績・FY23通期計画について (P.14-36)

### 建築セグメント (P.14-19)

- 2Q実績は、前年同期比増収減益となったが、通期では資機材高騰分の価格転嫁により、**増収増益の見込み**
- 2Q受注高は大型案件の獲得により、**前年同期比大幅増加**、通期においても大幅な増加を見込み、**受注時利益率7%を維持**

### 土木セグメント (P.20-23)

- 2Q実績は、設計変更獲得により、**前年同期比で大幅な増収増益**、通期においても高い利益率を維持し、**大幅な増収増益の見込む**
- 受注高は、計画通り進捗しており、**受注時利益率も高水準を維持**

### インフラ運営セグメント (P.24-28)

- 大阪市工業用水道コンセッションに続き、国内初となる下水道の処理場、ポンプ場、管路の全ての維持管理から更新までを含む**三浦市公共下水道コンセッションの運営を4月より開始し、運営は順調に推移**
- **PPP/PFI推進アクションプラン（令和5年度改定版）が改定され、アリーナ、ウォーターPPPの案件拡大の見込み**
- **インフラ運営における売却益については、他セグメントの業績上振れおよび売却益の更なる向上を考慮し、今期の再生可能エネルギー案件の売却は見送り、一部開発施設を売却する予定**

# 1. 決算のポイント、他

## 舗装セグメント (P.29-32)

- FY23 2Q実績は、材料費高騰分の価格への転嫁、および豊富な繰越工事により**前年同期比増収増益**となった
- 建設事業においては**売上総利益率を重視した受注活動**、製品販売事業においては**適正な販売単価を維持**することで、通期計画達成を見込む

## 機械セグメント (P.33-36)

- FY23 2Q実績は、「かにクレーン」「クローラクレーン」をはじめとする自社設立の販売が好調であり、販売価格の見直し等により売上総利益率も改善され、**前年同期比増収増益**となった。
- FY23も、足元の受注状況から、**通期業績も計画を達成する見込み**

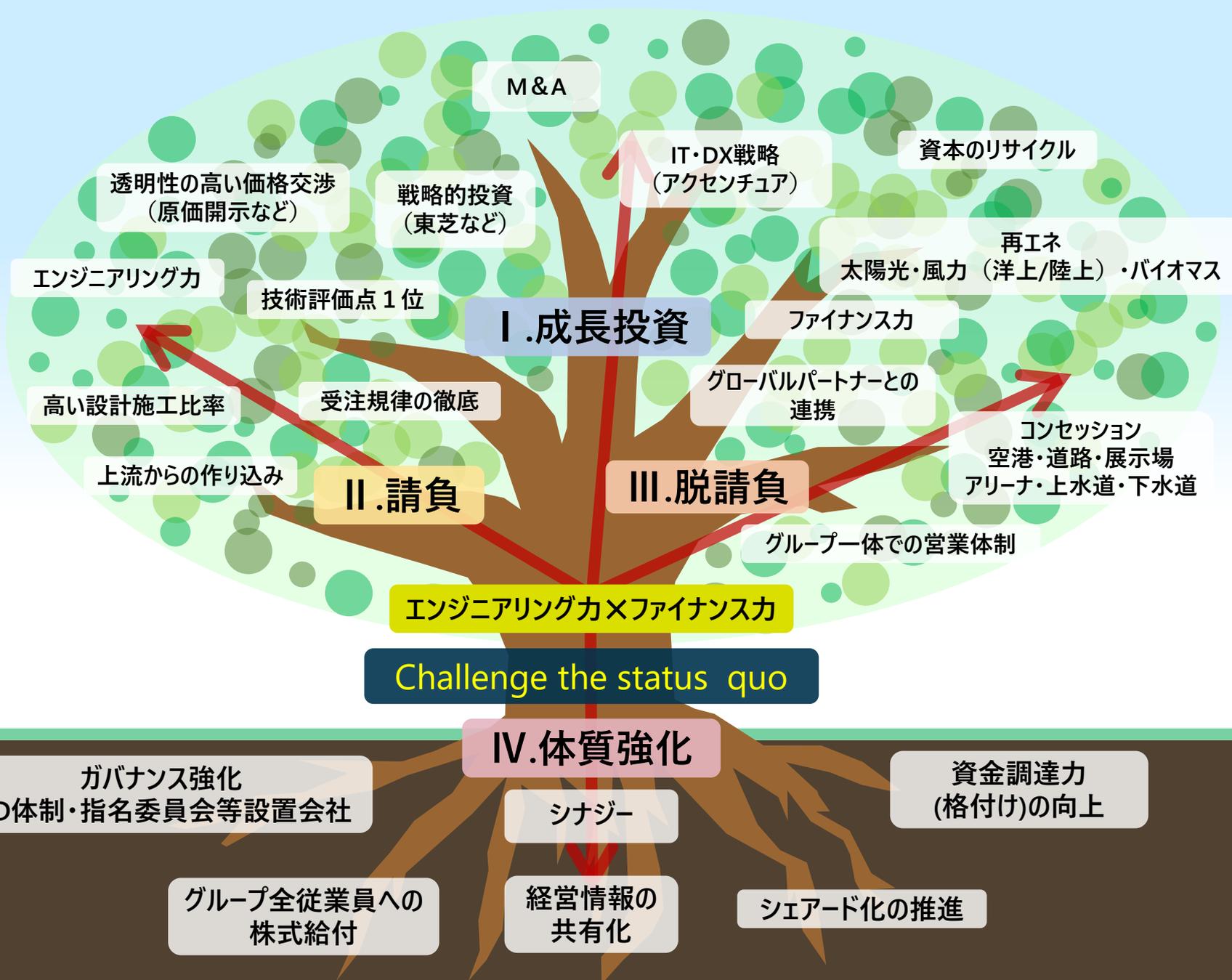
## ③ 株主還元について (P.9)

- FY21、22の自己株式300億円取得に引き続き、**FY23中に100億円取得完了の見込**  
(2023年6月より実施、10月末で48億円取得完了)
- **FY23総還元性向76.9%の見込み** (配当性向43.4%、自己株式の取得31.5%、地球への配当2%)
- FY23より**中間配当**を実施

## ④ 政策保有株について (P.9)

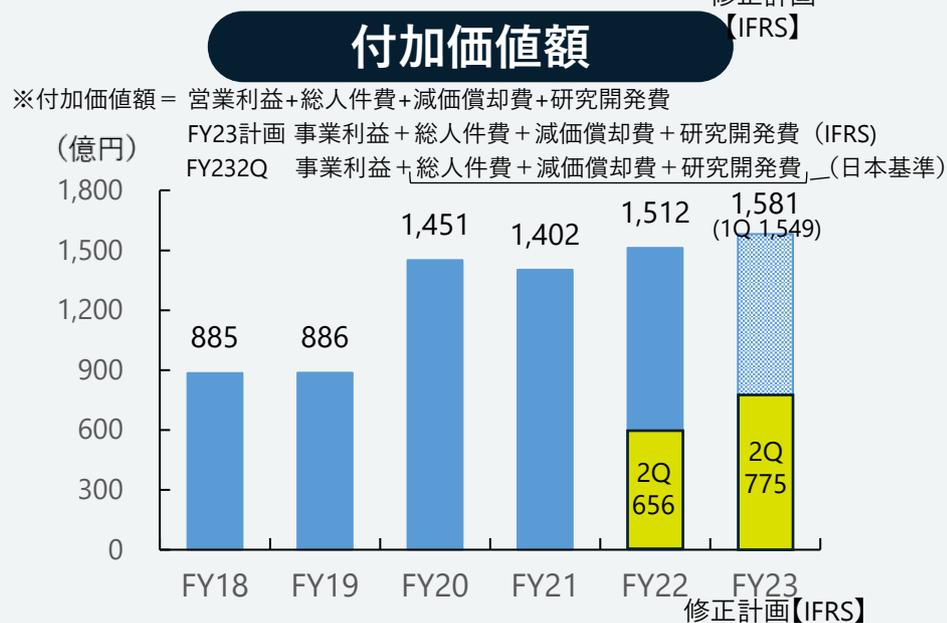
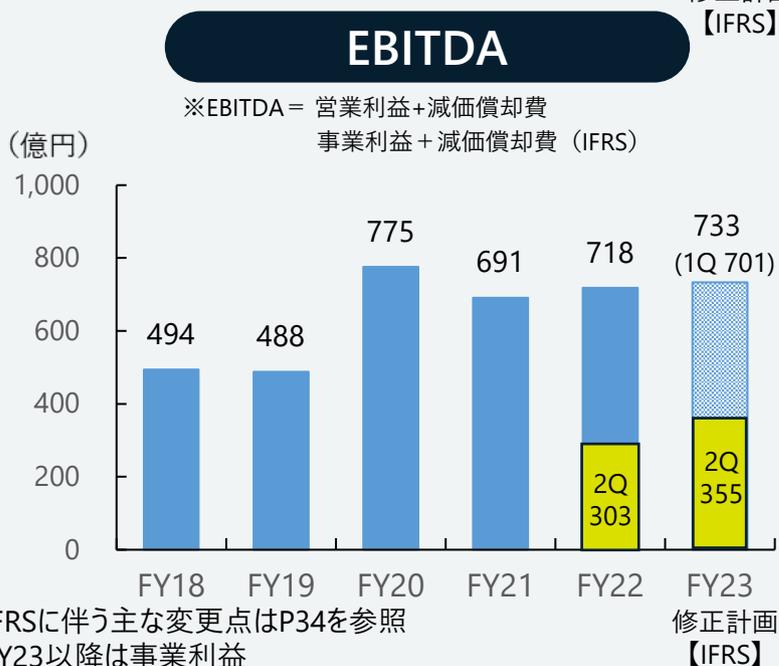
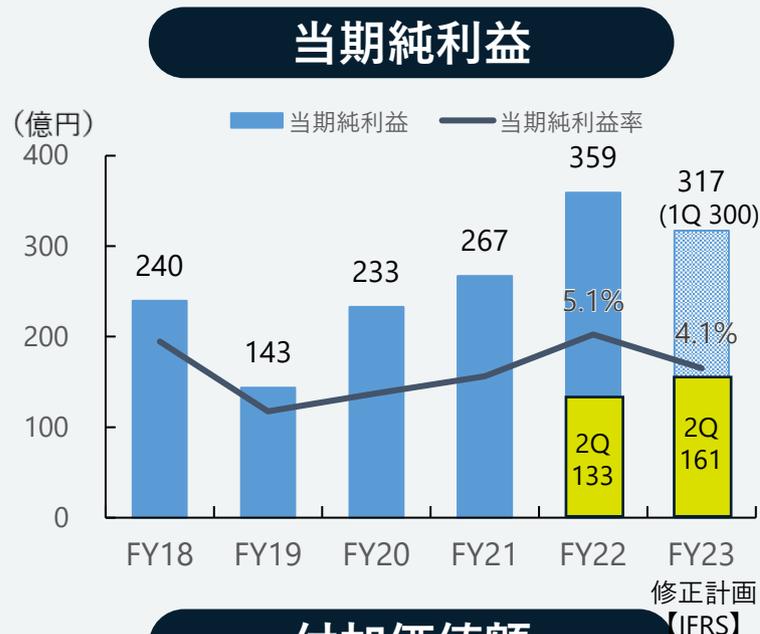
- FY23は30億円の売却を予定

## 2. インフロニアの成長戦略：総合インフラサービス企業の実現



### 3. インフロニア・ホールディングスの業績数値の推移

- **各セグメントで順調に推移し、通期計画は達成する見込み**
- **営業利益および付加価値額は前期を上回る見込み（付加価値額は過去最高を見込む）**



※1 IFRSに伴う主な変更点はP34を参照  
※2 FY23以降は事業利益

## 4. 決算の概要

- FY23 2Q実績は、大型案件の完工や設計変更の獲得により、**前年同期比で大幅な増収増益**
- FY23通期計画についても、**期首計画を上方修正**

(億円)

	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績		前年 同期比	進捗率	FY22 通期実績	FY23【計画】				前期比
		IFRS <sup>※</sup>	日本基準				IFRS <sup>※</sup>		日本基準		
							通期予想	修正予想	通期予想	修正予想	
売上高	3,135	3,554	3,531	396	46.3%	7,096	7,450	↑ 7,682	7,400	↑ 7,629	533
売上総利益	428 (13.7%)	513 (14.4%)	513 (14.5%)	85	47.9%	981 (13.8%)	1,028 (13.8%)	↑ 1,072 (14.0%)	1,030 (13.9%)	↑ 1,070 (14.0%)	89
一般管理費	281 (9.0%)	286 (8.0%)	314 (8.9%)	32	47.8%	576 (8.1%)	593 (8.0%)	↑ 603 (7.8%)	647 (8.7%)	↑ 657 (8.6%)	81
事業利益	—	231 (6.5%)	—	—	—	—	449 (6.0%)	↑ 481 (6.3%)	—	—	—
営業利益	147 (4.7%)	—	199 (5.6%)	52	48.2%	405 (5.7%)	—	—	383 (5.2%)	↑ 413 (5.4%)	8
営業外収益	30 (0.9%)	—	23 (0.7%)	△6	—	43 (0.6%)	—	—	—	—	—
営業外費用	16 (0.5%)	—	14 (0.4%)	△2	—	30 (0.4%)	—	—	—	—	—
経常利益	160 (5.1%)	—	209 (5.9%)	48	49.1%	418 (5.9%)	—	—	392 (5.3%)	↑ 425 (5.6%)	7
特別利益	31 (1.0%)	—	6 (0.2%)	△25	—	125 (1.8%)	—	—	—	—	—
特別損失	3 (0.1%)	—	2 (0.1%)	△1	—	24 (0.3%)	—	—	—	—	—
当期純利益	133 (4.2%)	161 (4.5%)	135 (3.8%)	2	49.2%	359 (5.1%)	300 (4.0%)	↑ 317 (4.1%)	252 (3.4%)	↑ 275 (3.6%)	△84
自己資本	3,450	—	3,637	—	—	3,527	—	—	—	—	—
ROE	—	—	—	—	—	10.3%	—	—	—	—	—
EPS	—	—	—	—	—	138.4円	120.1円	↑ 126.7円	100.9円	↑ 109.9円	—

※1 実績値のIFRSへの組換えは今後行うため概算となる

※2 IFRSに伴う主な変更点はP38を参照

## 5. セグメント別 売上高・利益の内訳

(億円)

	FY22		FY23		前年 同期比	進捗率	FY22 通期実績 ①	FY23【計画】 日本基準			前期比 ③-①	FY23【計画】 IFRS※			前期比 ⑤-①
	2Q実績		2Q実績					通期計画 ②	修正計画 ③	差 ③-②		通期計画 ④	修正計画 ⑤	差 ⑤-④	
<b>売上高</b>	<b>3,135</b>	<b>3,531</b>	<b>396</b>	<b>46.3%</b>			<b>7,096</b>	<b>7,400</b>	<b>7,629</b>	<b>229</b>	<b>532</b>	<b>7,450</b>	<b>7,682</b>	<b>232</b>	<b>586</b>
建築	869	1,070	201	41.2%			2,155	2,390	2,597	207	442	2,205	2,421	216	266
土木	686	827	141	50.1%			1,520	1,550	1,652	102	131	1,550	1,650	100	130
舗装	1,091	1,164	73	47.9%			2,437	2,430	2,430	0	△7	2,425	2,424	△1	△13
機械	163	194	30	49.1%			373	390	394	4	21	390	393	3	20
インフラ運営	147	83	△64	47.4%			225	240	176	△65	△50	380	316	△64	91
その他	179	194	15	50.8%			386	400	381	△19	△5	500	478	△22	92
<b>売上総利益</b>	<b>428 (13.7%)</b>	<b>513 (14.5%)</b>	<b>85</b>	<b>47.9%</b>			<b>981 (13.8%)</b>	<b>1,030 (13.9%)</b>	<b>1,070 (14.0%)</b>	<b>40</b>	<b>89</b>	<b>1,028 (13.8%)</b>	<b>1,072 (14.0%)</b>	<b>44</b>	<b>91</b>
建築	74 (8.5%)	69 (6.4%)	△5	27.6%			237 (11.0%)	260 (10.9%)	249 (9.6%)	△11	12	250 (11.3%)	242 (10.0%)	△8	5
土木	137 (20.0%)	238 (28.7%)	101	60.9%			285 (18.8%)	270 (17.4%)	390 (23.6%)	120	105	270 (17.4%)	389 (23.6%)	119	104
舗装	81 (7.4%)	140 (12.0%)	59	50.1%			241 (9.9%)	283 (11.6%)	279 (11.5%)	△4	38	280 (11.5%)	277 (11.4%)	△3	36
機械	34 (20.6%)	41 (21.1%)	7	48.6%			78 (20.8%)	82 (21.0%)	84 (21.3%)	2	6	82 (21.0%)	84 (21.4%)	2	6
インフラ運営	86 (58.2%)	11 (13.1%)	△75	38.9%			101 (44.8%)	92 (38.3%)	28 (16.0%)	△64	△73	94 (24.7%)	33 (10.4%)	△61	△68
その他	17 (9.4%)	15 (7.8%)	△2	37.8%			39 (10.1%)	43 (10.8%)	40 (10.5%)	△3	1	52 (10.4%)	47 (9.8%)	△5	8
<b>営業利益</b> ※事業利益(IFRS時)	<b>147 (4.7%)</b>	<b>199 (5.6%)</b>	<b>52</b>	<b>48.2%</b>			<b>405 (5.7%)</b>	<b>383 (5.2%)</b>	<b>413 (5.4%)</b>	<b>30</b>	<b>8</b>	<b>449 (6.0%)</b>	<b>481 (6.3%)</b>	<b>32</b>	<b>76</b>
建築	△2 (-0.2%)	△20 (-1.9%)	△19	△27.9%			89 (4.1%)	90 (3.8%)	73 (2.8%)	△17	△16	80 (3.6%)	66 (2.7%)	△14	△23
土木	82 (11.9%)	177 (21.4%)	95	69.0%			170 (11.2%)	137 (8.8%)	256 (15.5%)	119	86	137 (8.8%)	255 (15.5%)	118	85
舗装	△18 (-1.6%)	34 (2.9%)	52	58.6%			39 (1.6%)	63 (2.6%)	58 (2.4%)	△5	19	125 (5.2%)	121 (5.0%)	△4	82
機械	6 (3.5%)	11 (5.4%)	5	58.3%			17 (4.7%)	18 (4.6%)	18 (4.6%)	0	1	18 (4.6%)	18 (4.6%)	0	1
インフラ運営	76 (51.8%)	△1 (-1.4%)	△78	-			81 (36.2%)	63 (26.3%)	0 (0.0%)	△63	△81	62 (16.3%)	1 (0.3%)	△61	△80
その他	3 (1.4%)	△0 (-0.2%)	△3	△3.8%			8 (2.2%)	12 (3.0%)	8 (2.1%)	△4	△0	27 (5.4%)	20 (4.2%)	△7	12

※舗装セグメントはのれんの償却等が加味されております

※セグメント分けの詳細についてはP.45をご参照ください

※IFRSに伴う主な変更点はP38を参照

## 6. 手持工事高、受注高、受注時利益率の推移（建築、土木セグメント）

- 建築の2Q時点、期末計画の手持工事高は**過去最高額**
- 土木の受注時利益率は高水準を維持、建築の受注時利益率も計画達成を見込む
- 物価上昇分の交渉に加え、引き続き受注競争に巻き込まれにくい**上流からの作り込み**（安定顧客、設計施工比率、大型案件情報確保）により、**受注時利益率管理を徹底する**

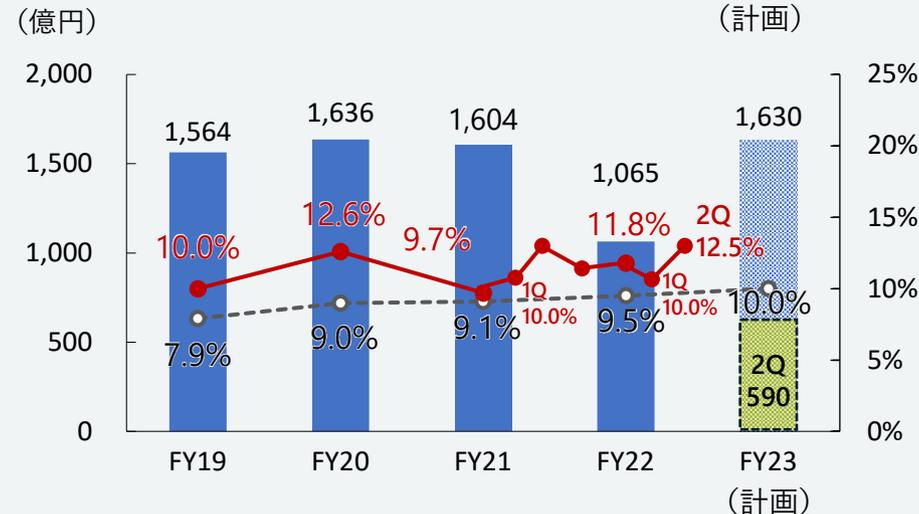
### 手持工事高※



建築

土木

### 受注高・受注時利益率※



※前田建設（個別）の業績数値

## 7. 資本戦略・還元方針／FY23 2Qの実績と見通し

### 株主還元

- FY21, FY22の自己株式300億円取得に引続き、**FY23中に100億円取得見込み**(5/11発表)  
(2023年6月より実施、10月末で48億円取得完了)

### 政策保有株

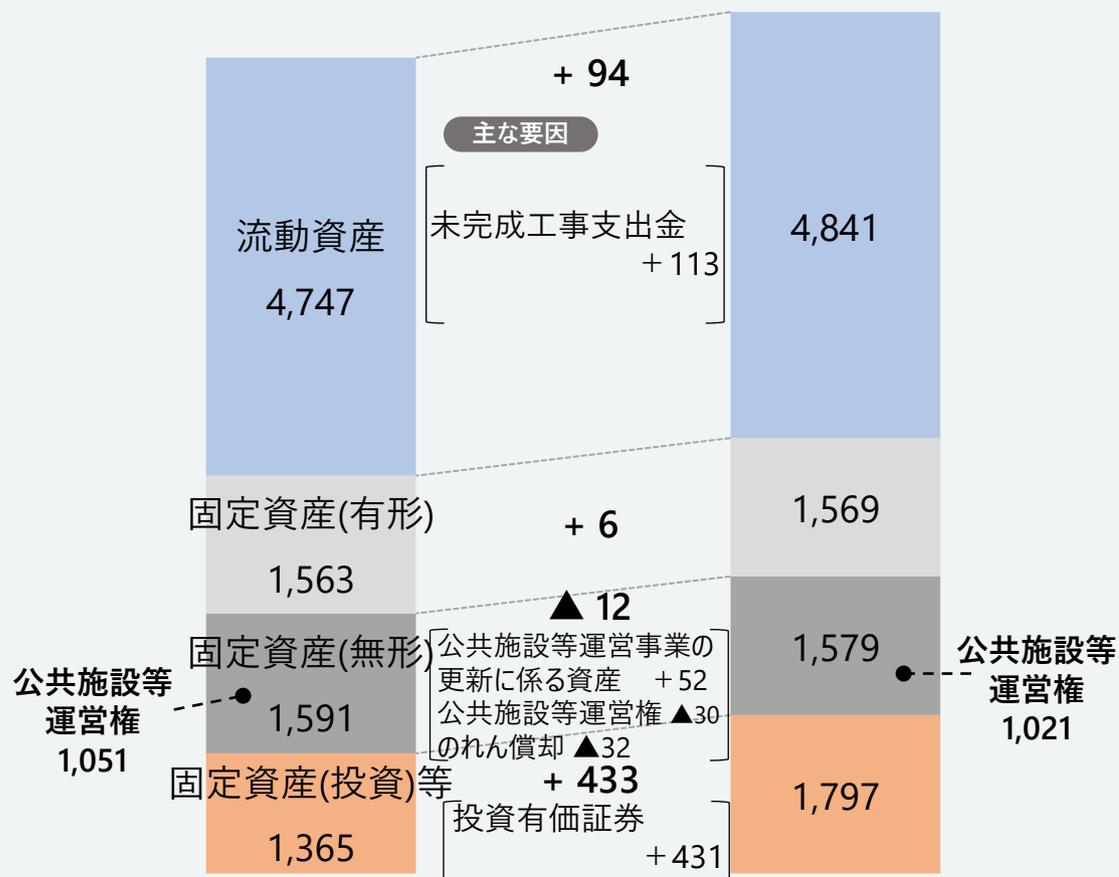
- FY23は30億円の売却を予定

Medium-term Vision 2024 (2025年3月期までの中期経営計画)			FY22末時点	FY23 2Q時点	備考
資本効率	ROE	9.5%	10.3%	—	—
最適 資本構成	自己資本比率	30%以上	38.1%	37.2%	—
	D/Eレシオ	0.6倍以下	0.4倍	0.6倍	—
株主還元	配当性向	30%以上	39.7%	43.4% (通期修正計画)	FY23通期計画 1株当たり配当額 <b>55円</b> ( <b>中間配当</b> を実施)
	自己株式の 取得	FY24までに 400億円以上	FY21・22で 300億円取得完了	FY23中に 100億円取得 (6月より実施中)	FY23で中計目標達成見込み
	総還元性向	—	69.5%	76.9% (通期修正計画)	FY23通期修正計画 配当性向43.4% + 自己株式取得 31.5% + 地球への配当2.0%
資産 効率化	政策保有株/ 純資産割合	20%以下	19.8%	23.5%	政策保有株式の株価の上昇により、 FY22 4Q 19.8% → FY23 2Q 23.5%
	保有資産の 売却	グループ保有資産の利用状況等を精査し、非効率な資産の売却・統合を実施			

## 8. 連結貸借対照表の主な増減要因

### 資産

9,266 (億円) + 521 9,787  
(8,214)<sup>※1</sup> (+ 552) (8,766)<sup>※1</sup>



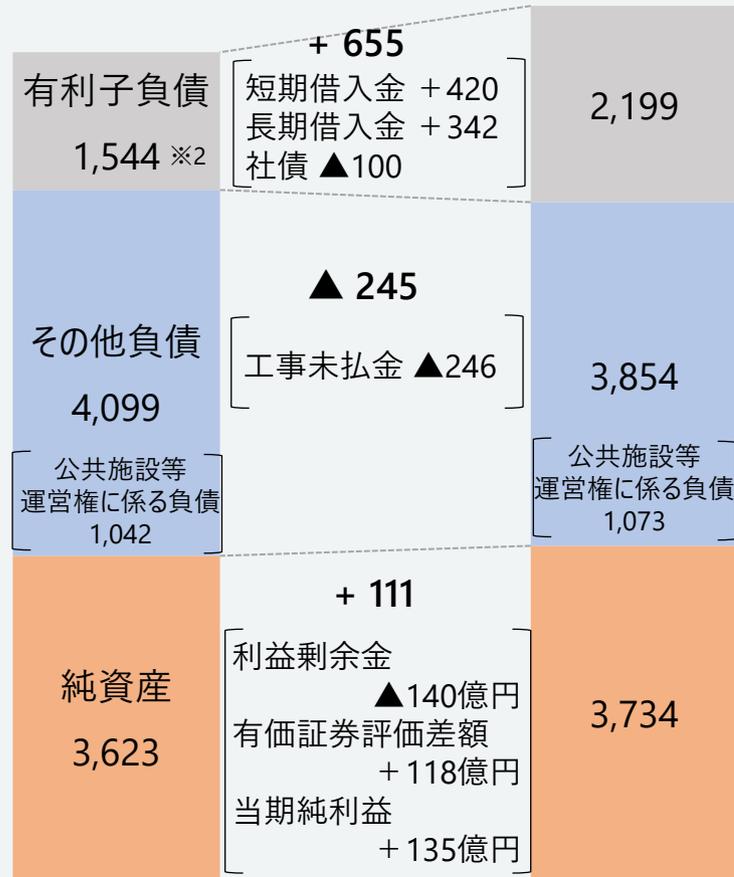
FY22 4Q

FY23 2Q

ROA 3.9%  
(4.4%)<sup>※1</sup>

### 負債・純資産

9,266 + 521 9,787 (億円)



FY22 4Q

FY23 2Q

※1 ( )…公共施設等運営権を除いた数値

※2 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金 + ノンリコース借入金 (1年以内返済予定も含む) + 社債

※3 公共施設等運営権

コンセッション事業などの数年にわたって公共施設を運営する権利の譲渡を受ける際に支払われる対価

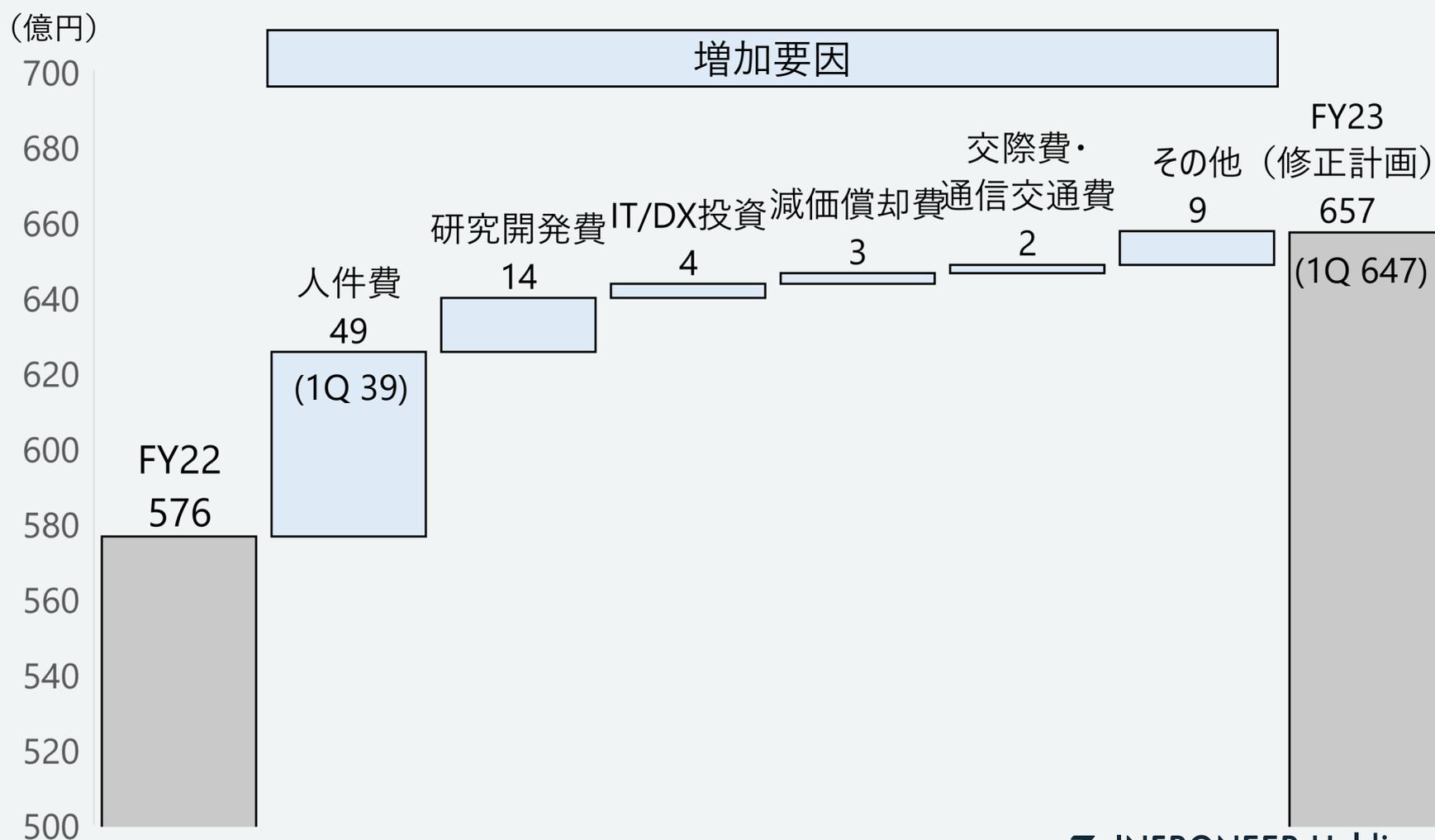
## 9. FY23一般管理費の増減の主な要因

### 人件費

- グループ全従業員への株式給付制度(J-ESOP)導入による引当金の増加等
- 新人事制度の導入、定期昇給による増加

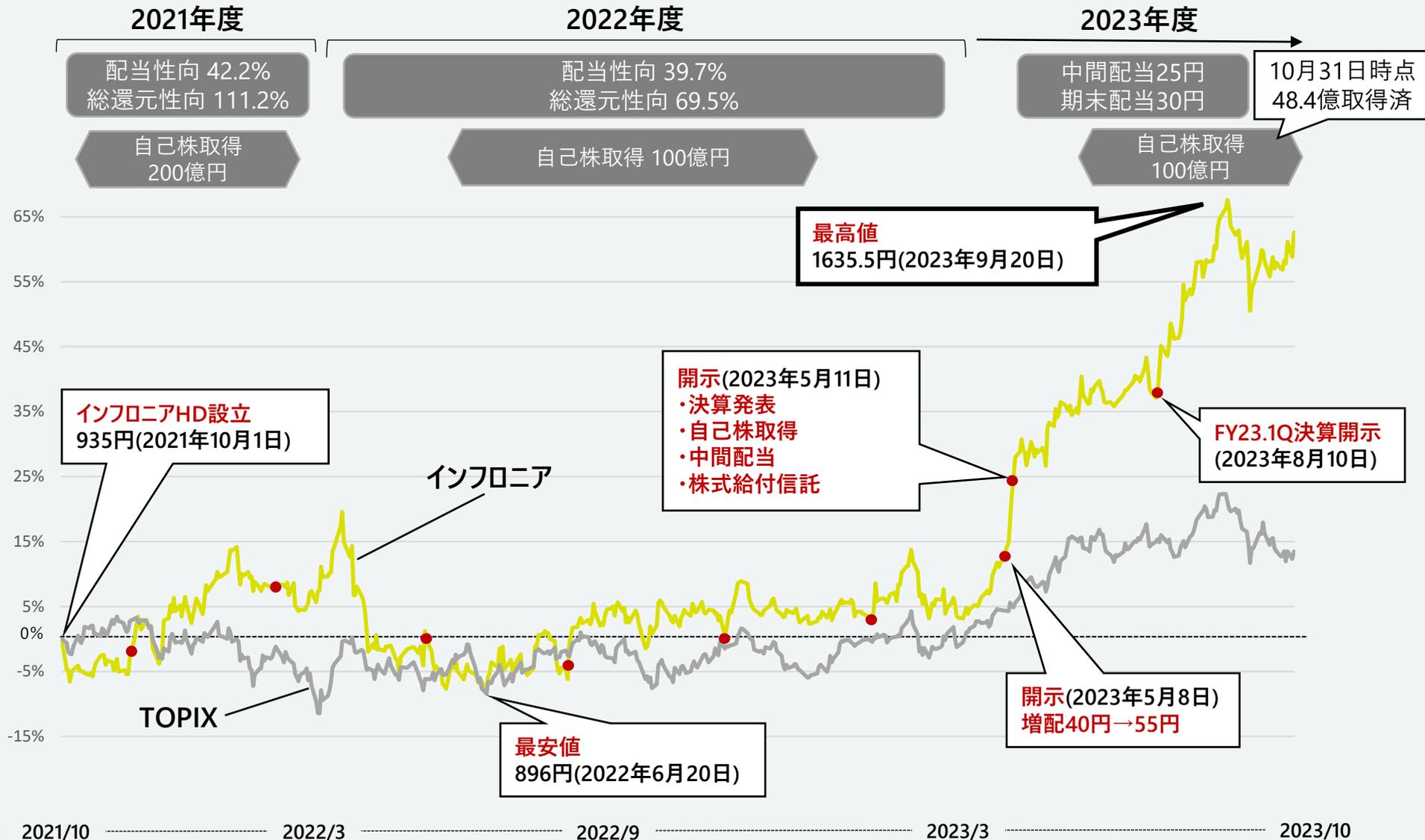
### 研究開発費

- 脱請負分野等の新規開発テーマの増加、道路包括管理に関する研究費



## 10. 資本戦略と株価の推移

- FY22決算発表後、**上場以来最高値を更新**
- 引続き資本戦略の実施および業績目標達成により資本効率を意識した経営を進める



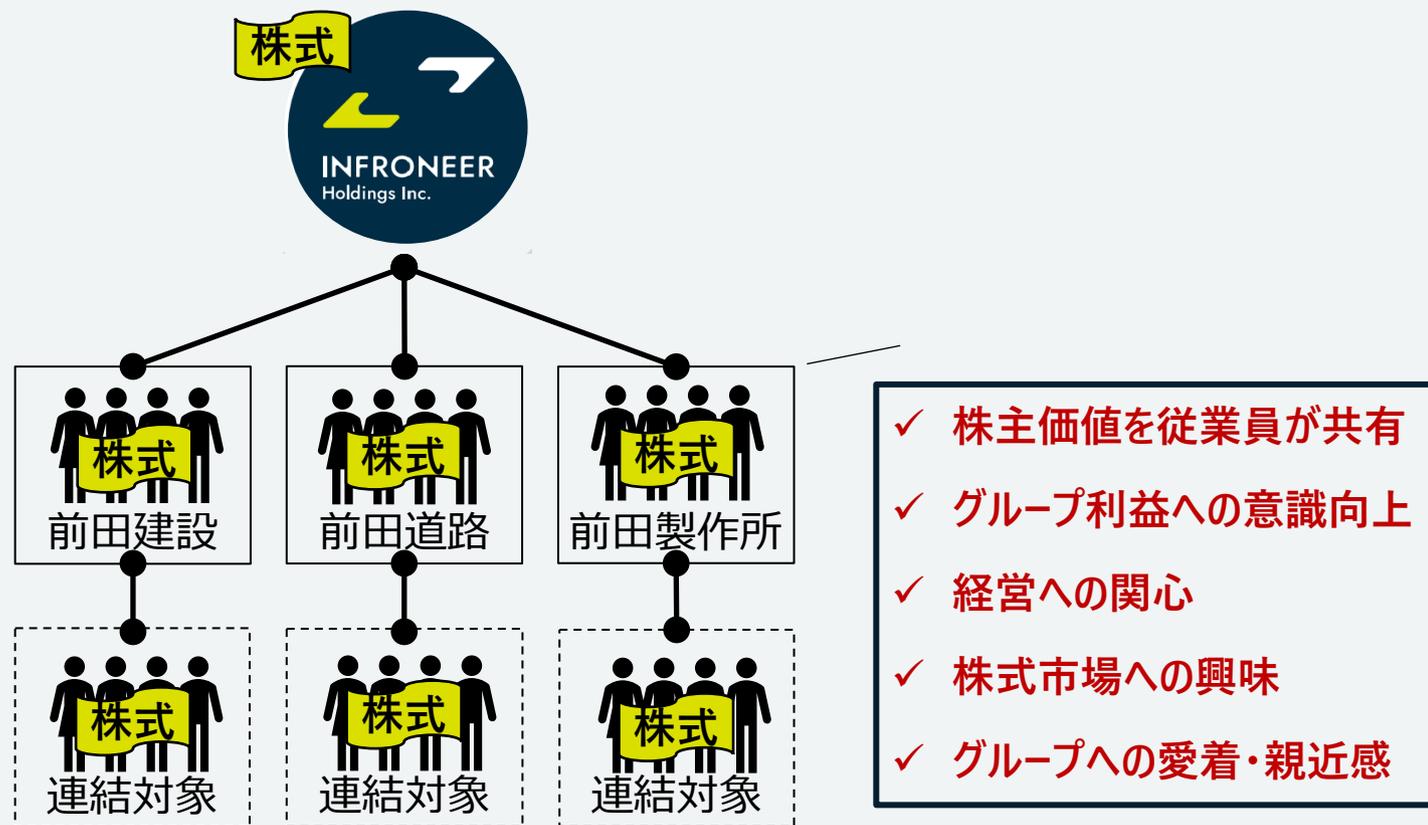
2021/10 ..... 2022/3 ..... 2022/9 ..... 2023/3 ..... 2023/10

※2021年10月1日時点の株価を基準(0)とした、株価の伸び率を%で表示。

●決算開示日

## 11. グループ従業員への当社株式の給付について

- 一定の要件を満たした「当社及び当社グループ子会社の全従業員」に当社株式を給付するインセンティブプラン「**株式給付信託（J-ESOP）**」の導入
- グループ一体感の醸成、株価及び**グループ業績向上への従業員の意欲を高める**
- **グループの純利益に連動し株式給付額を決定**



一定の要件を満たした**グループ全従業員(約8,000人)**へ

## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

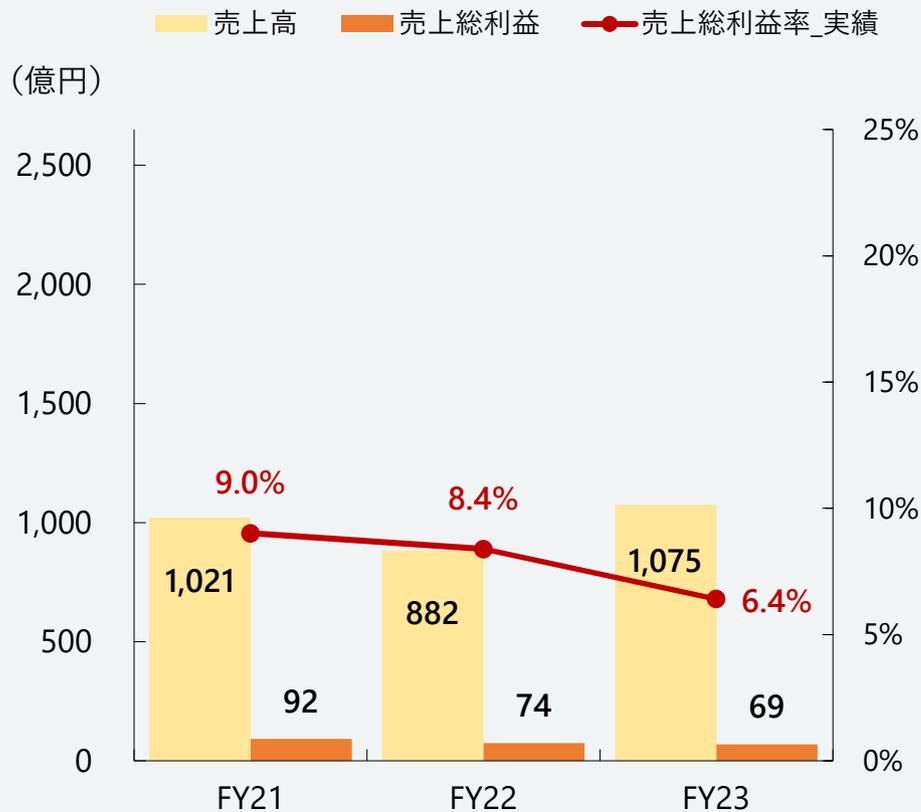
機械

その他

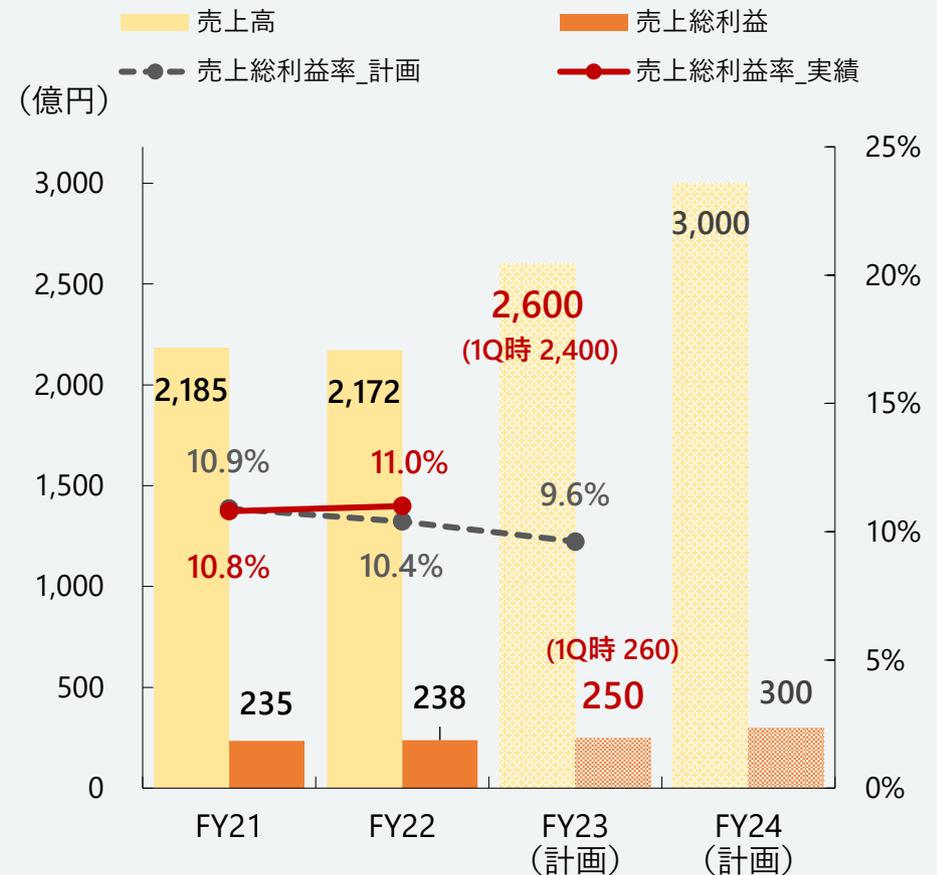
# 1. 建築セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別）

- FY23 2Q 期末の売上高計画に対して進捗（進捗率45%）は例年並み  
労務費や設備工事費の急激な高騰分の価格転嫁が遅れ、利益が低下した
- FY23 通期 増収増益の見込み。労務費や設備工事費の高騰分を価格に転嫁し、利益回復を目指す
- FY24 通期 大型案件の進捗および一部完成基準案件もあり、大幅な増収増益を見込む

## 第2四半期※



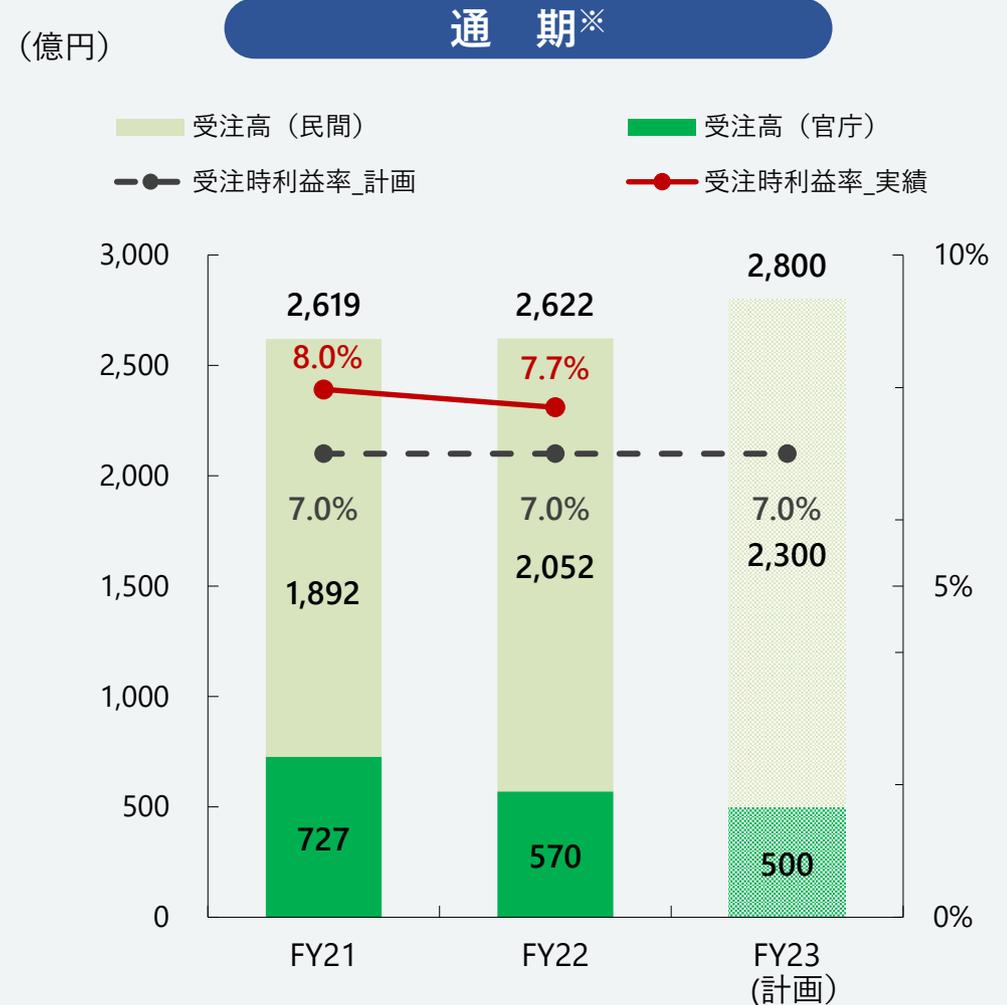
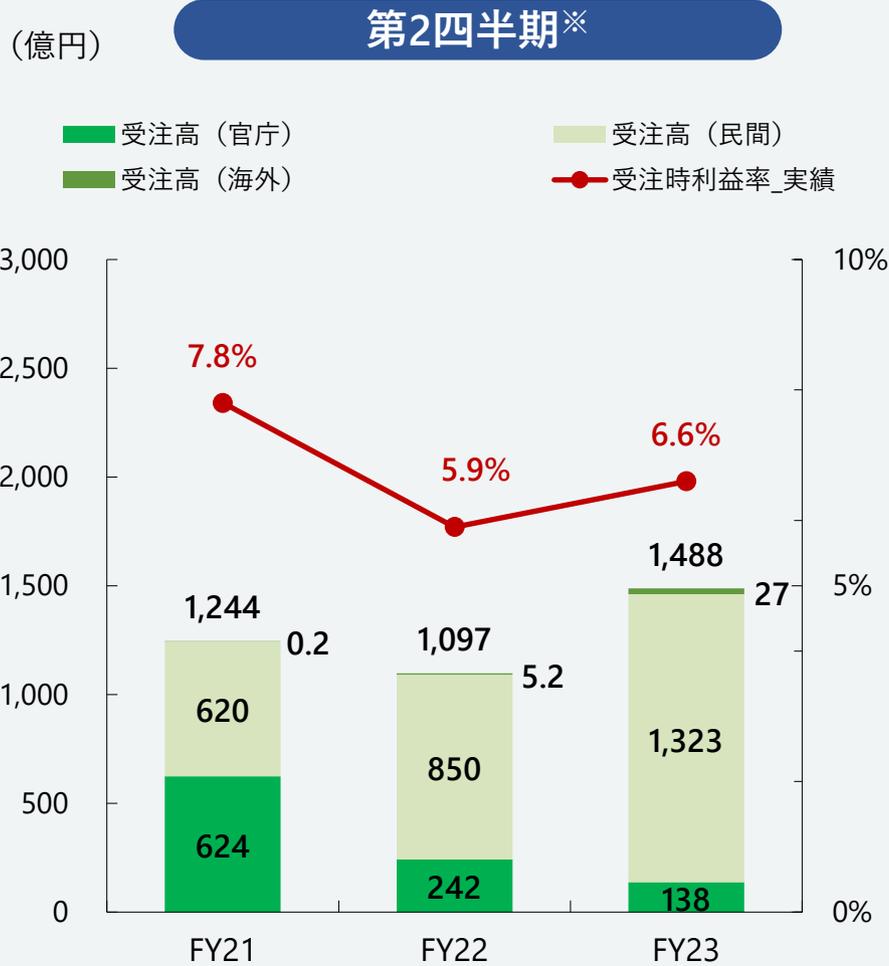
## 通期※



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は過去の決算説明資料と数値が異なる。  
海外の主要現地法人の売上高、売上総利益はインフロニア・ホールディングス その他セグメントに含まれる。

## 2. 建築セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別）

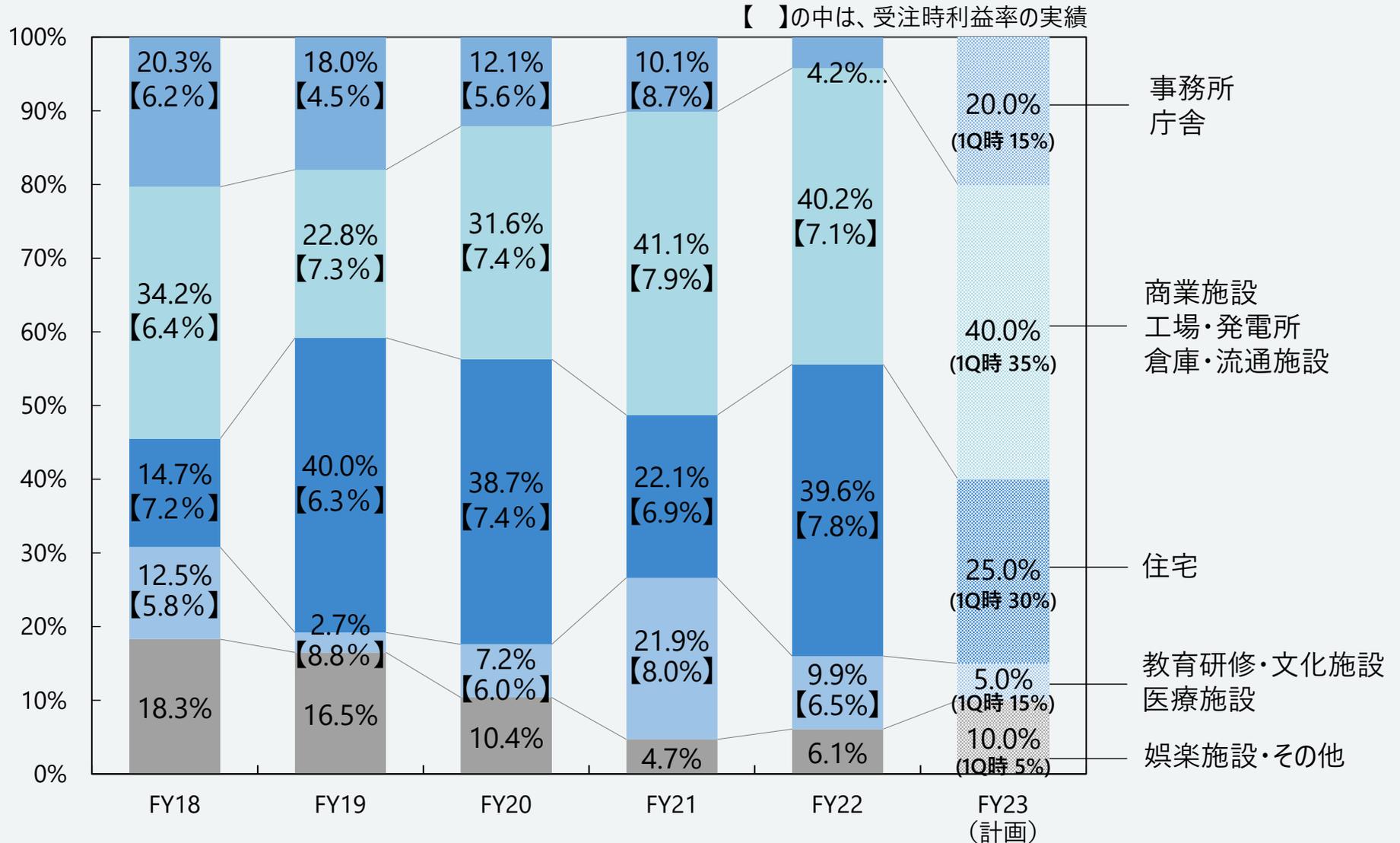
- FY23 2Q 再開発・オフィスビル・物流倉庫で大型案件を受注
- FY23通期 今後も再開発・大型物流倉庫等の受注を見込んでおり、受注高目標2,800億円を達成する見込み  
引き続き受注時利益率7%管理を徹底



※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。  
※海外については、当時の為替レートにより算定した額。

### 3. 建築セグメント 建物用途別 受注比率の推移（前田建設 個別 国内）

- FY23通期 大型オフィスプロジェクトにより「事務所・庁舎」比率が高まる見込み  
 大型物流倉庫の受注および受注見込みの増加により、「倉庫・流通施設」比率が高まる見込み  
 住宅は再開発プロジェクトを主軸として、引続き安定受注を目指す



## 4. トピックス：「大型民間案件への取組（再開発事業／大型オフィス）」

### 大崎駅西口F南地区第一種市街地再開発事業 施設建築物新設工事、公共施設等整備工事



本地区は、老朽化した小規模木造家屋が密集し、狭隘な道路、広場や緑地の不足など防災上の問題を抱えていました。本事業では、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新により、副都心にふさわしい都市機能の更新と安全で快適な都市環境の形成を目指し、密集市街地を解消した防災性の高い空間づくりを行っています。

発注者：大崎駅西口F南地区市街地再開発組合

用途	住宅、事務所、店舗、保育所、公益施設、駐車場等
構造・規模	RC造・SRC造・S造、地下3階・地上37階
延床面積	52,124㎡
工期	2023年4月～2026年2月

### （仮称）天神ビジネスセンター2期計画新築工事



本計画は、天神地区の国際競争力向上に貢献する、多様で柔軟な働き方を実現する次世代ワークプレイスです。地下から7層にわたる特徴的な吹き抜け空間「アクセラリウム」を整備し、集客・交流・創造の活性化へと繋げます。建物内外に積極的に緑化空間を配置し、優れた環境配慮技術により「ZEB oriented」の認証取得を目指すなど、環境負荷を低減し、省エネ性能の高いビルを実現します。

発注者：天神一丁目761プロジェクト合同会社

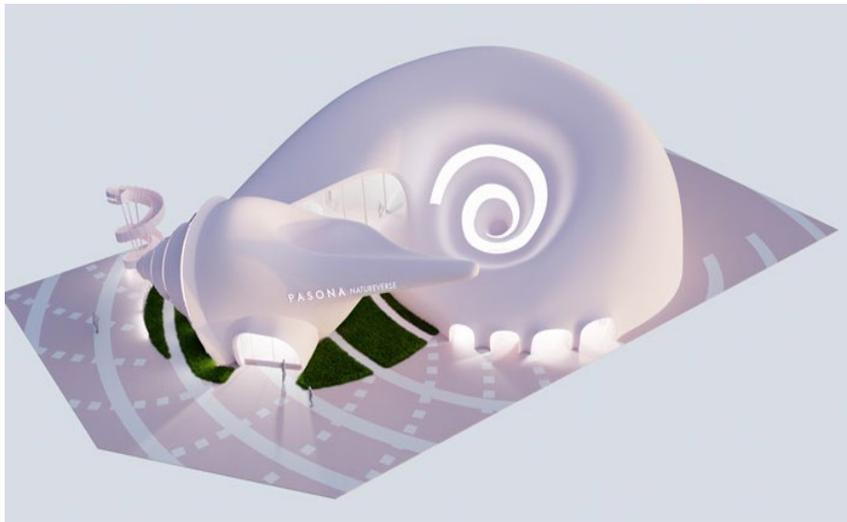
用途	事務所、店舗、駐車場等
構造・規模	S造・一部RC造、地下2階、地上18階
延床面積	62,948.19㎡
工期	2023年10月～2026年6月

## 4. トピックス：「大阪万博への取組」

### 2025大阪・関西万博 パビリオン

「2025大阪・関西万博」で「いのち輝く 未来社会のデザイン」をテーマに、社会課題への提案を発信するパビリオンが国内外の各団体によって数多く計画される中、「いのち ありがとう」をコンセプトに健康・生きがい・働き方を考える(株)パソナグループの「PASONA NATUREVERSE」と、ガンダムと人類が共存する未来という世界観で未来社会の課題解決におけるガンダムのさらなる可能性を検討する(株)バンダイナムコホールディングスの「GUNDAM NEXT FUTURE PAVILION」の2棟を受注しました。

#### PASONA NATUREVERSE



発注者：株式会社パソナグループ

用途	その他建築物
構造・規模	S造、地上2階
延床面積	2, 4 8 5 m <sup>2</sup>
工期	2023年9月～2024年11月

#### GUNDAM NEXT FUTURE PAVILION



発注者：株式会社バンダイナムコホールディングス

用途	その他建築物
構造・規模	S造、地上2階
延床面積	2, 5 1 5 m <sup>2</sup>
工期	2023年8月～2024年9月

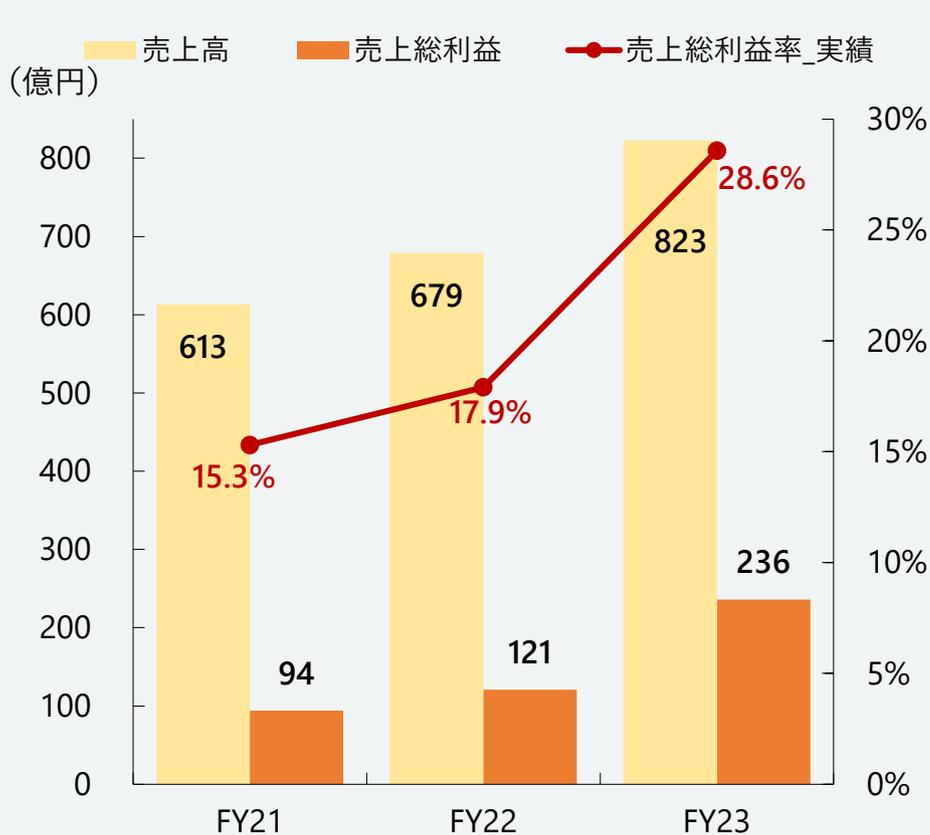
## セグメント別ハイライト

建築	<b>土木</b>	インフラ運営
舗装	機械	その他

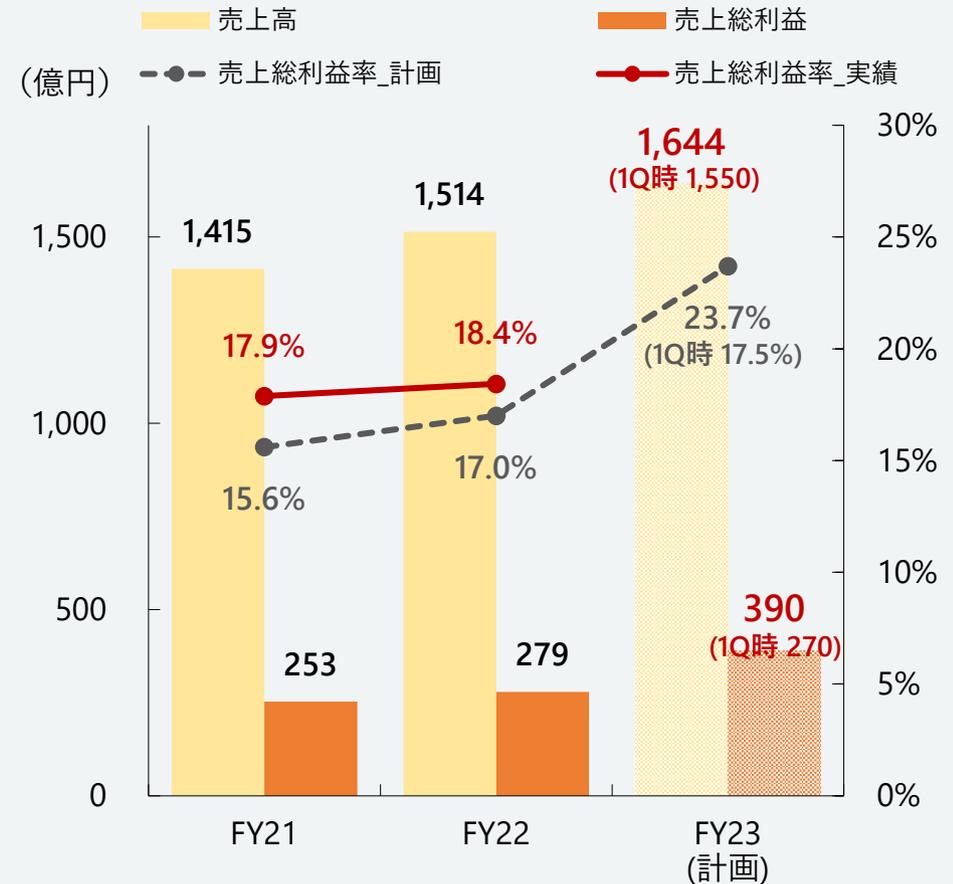
## 5. 土木セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田建設 個別 国内）

- FY23 2Q 期首手持の大型工事の利益率が大幅に改善することがほぼ確実となった。  
 また、今年度完工案件の難易度の高い設計変更および施工効率化・工期短縮が、利益の大幅な増加につながった。  
 期首手持工事での設計変更協議の前倒し等により売上高および利益の増加に寄与した。
- FY23 通期 期首手持大型工事の完成と更なる設計変更の獲得により、前年同期比増収を見込む

第2四半期※



通 期※

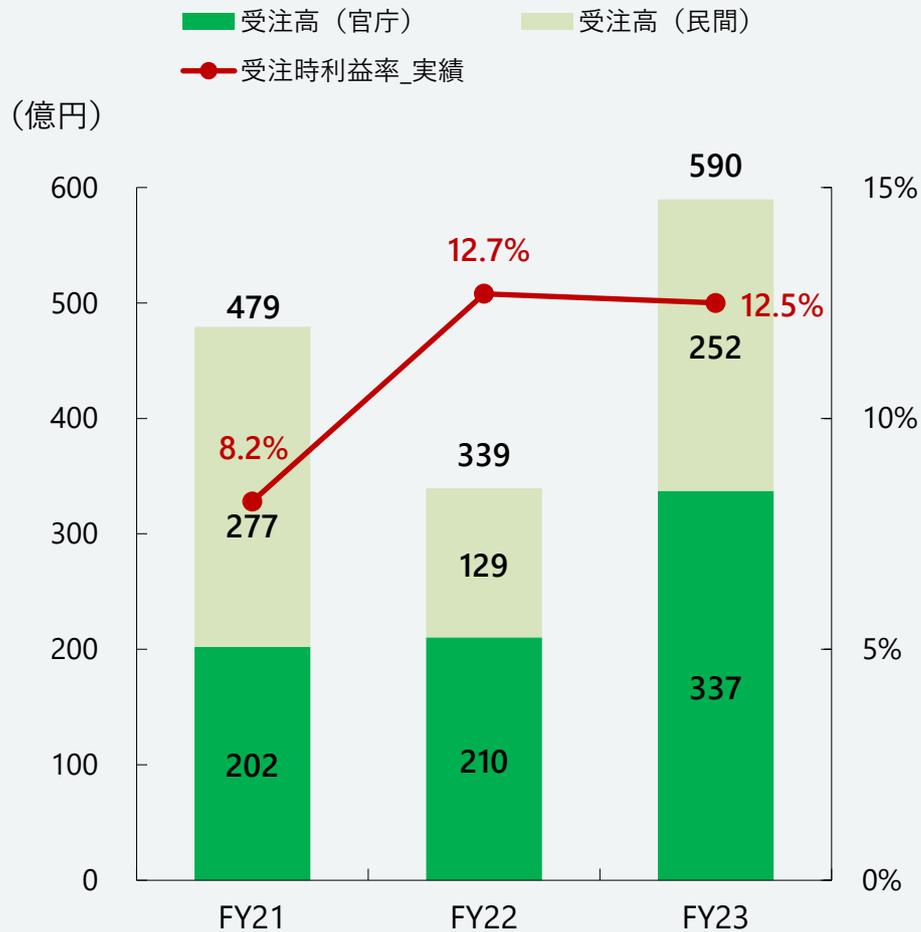


※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

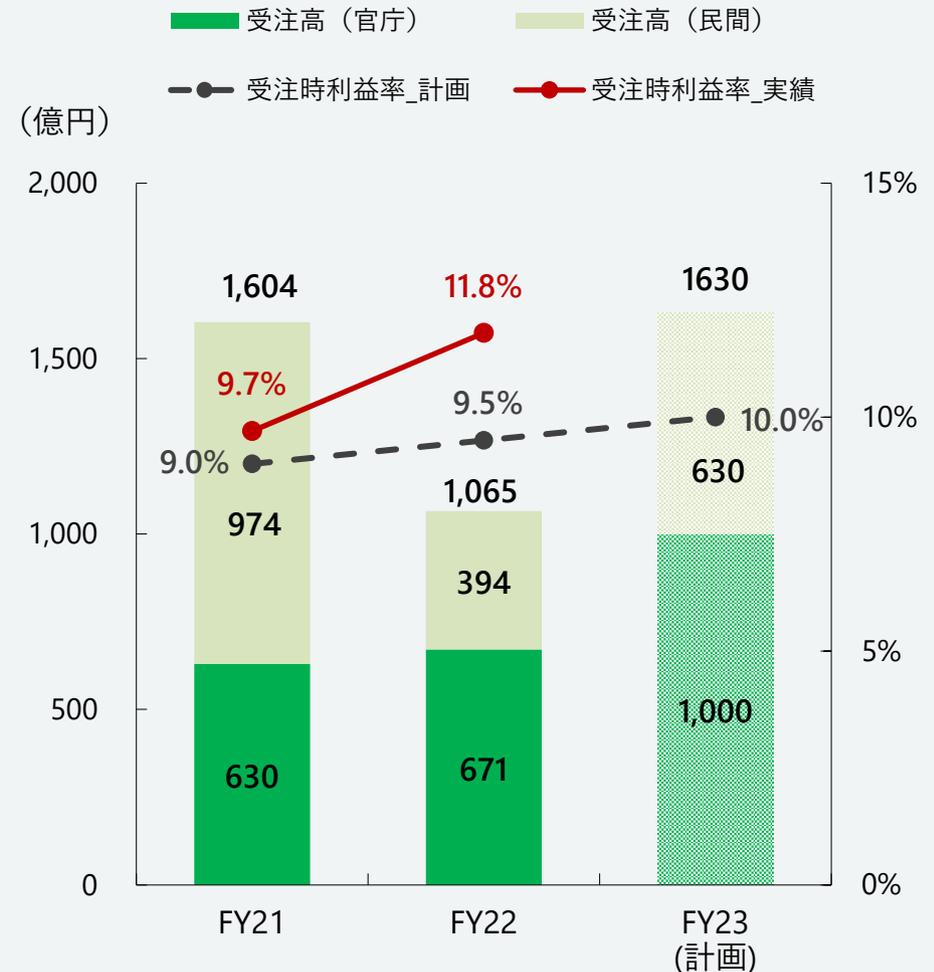
## 6. 土木セグメント 受注高と受注時利益率の推移（前田建設 個別 国内）

- FY23 2Q 受注は1Qに引き続き官民共に堅調で計画通り進捗。受注時利益率も高水準を維持
- FY23通期 下期に集中する大型工事の受注確保。更なる設計変更の獲得により通期計画達成を見込む。

### 第2四半期※



### 通期※



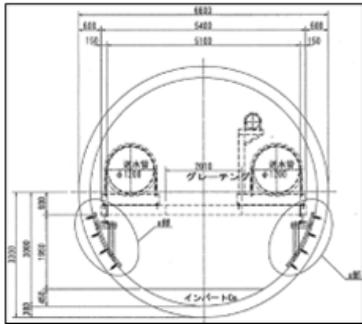
※不動産事業を含む数値のため、FY21以前の数値は公表資料と数値が異なる。

# 7. トピックス：「東京の上下水道事業の未来を担う長距離シールド工事を受注」

## 東京都芝浦水再生センター・森ヶ崎水再生センター間連絡管建設工事その5



■標準横断面図



本事業は、老朽化や能力不足等の課題を抱えた芝浦水再生センターと森ヶ崎水再生センター施設を全体的に造り替え、機能向上を図る再構築を実施するために、一時停止時の処理能力を相互融通する連絡管を京浜運河下65mに大口径シールドで建設するものである。

発注者：日本下水道事業団

施工場所 東京都品川区八潮4丁目地先～品川区八潮1丁目地先

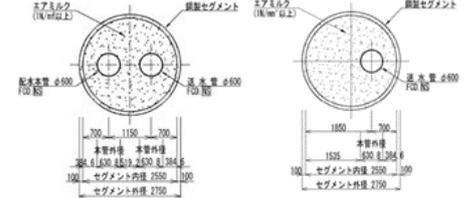
工事概要 泥水式シールド工法 Φ6000 L=2,162.2m

工期 2023年9月～2027年4月

## 根ヶ布給水所から青梅市勝沼一丁目地先間(600mm)及び配水本管(600mm)新設工事 (シールド工事)



■トンネル標準断面図



本事業は災害や事故時における給水の安定供給を目的としたものであり、本工事は根ヶ布給水所配水池よりJR青梅線『東青梅』駅付近までの送水管及び配水本管をシールド工法により整備するものである。配水本管については、途中2カ所で押入口立坑を施工し、推進及び開削により付近の配水管と接続する工事も含まれる。

発注者：東京都水道局

施工場所 東京都青梅市根ヶ布二丁目237番地内(根ヶ布給水所)から同市勝沼一丁目27番地先間

工事概要 泥土圧シールド工法 Φ2250 L=2,145m、トンネル内配管Φ600 2条 L=4,147m、立坑2箇所 外

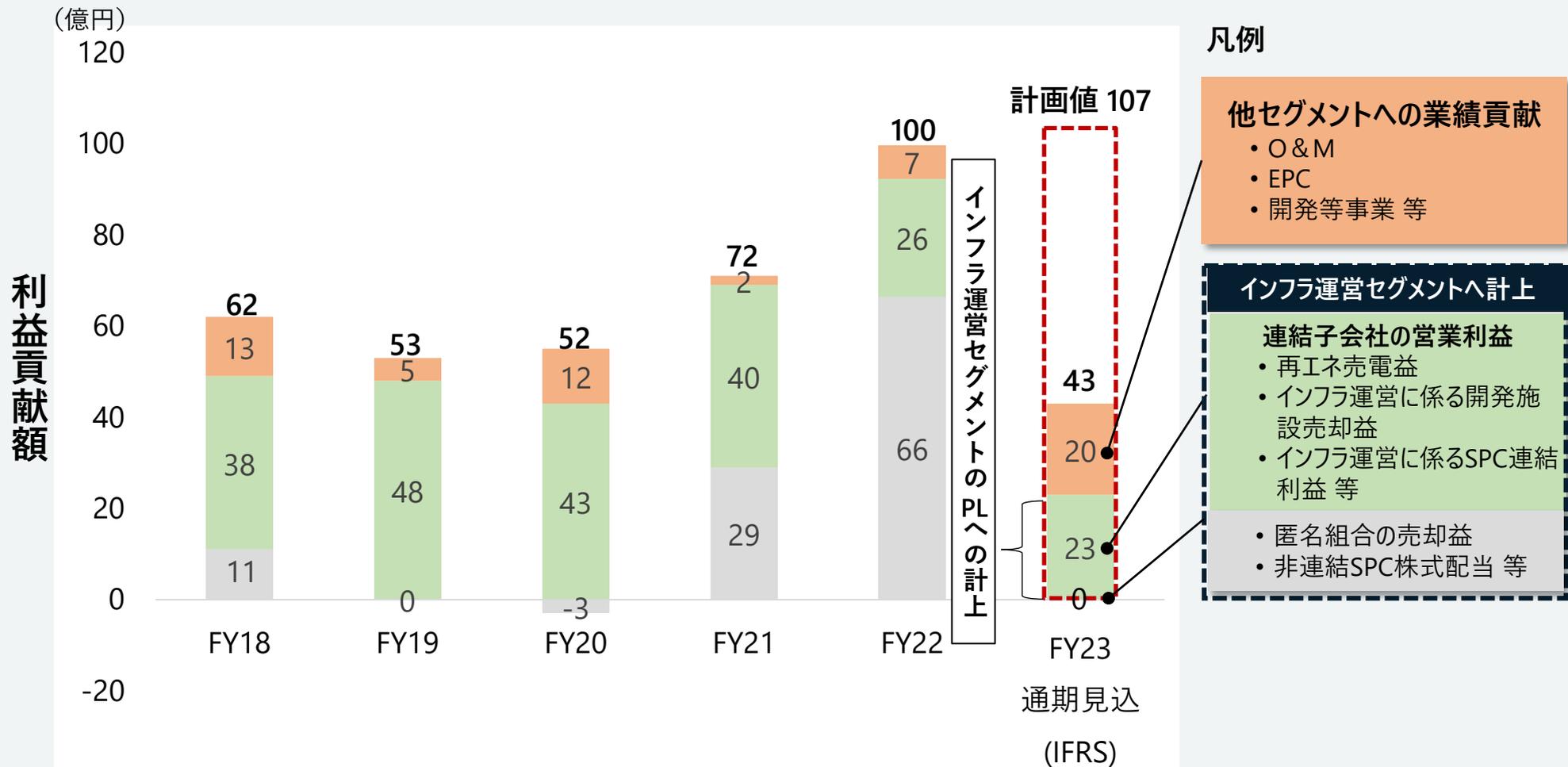
工期 2023年5月～2027年7月

## セグメント別ハイライト

建築	土木	インフラ運営
舗装	機械	その他

## 8. インフラ運営セグメント 利益貢献額について

- 検討していた**再生可能エネルギー事業の売却**を来期以降に見送ったが、**一部開発施設の売却**により、売却益が9億円となる見込み
- 愛知道路コンセッションは昨年度より通行台数は増加しているものの、コロナ禍以前までは回復していない  
また、償却方法の変更等も重なり、計画値より約9億円下振れの見込み
- 通期の利益貢献額は、**43億円**となる見込み



※1 O&M インフラの維持管理に伴う運転管理業務・維持管理業務等

※2 EPC インフラ運営事業に伴う設計・調達・建設工事等の一括請負業務

## 9-1. 政策動向：PPP/PFI推進アクションプラン（令和5年度改定版）が内閣府より公表

- 岸田政権はPPP/PFIを新しい資本主義の中核と位置付け、新たにアクションプランを発表
- アクションプランは事業規模目標や重点分野の設定、PPP/PFI推進に向けた取組みを進める実行計画を定めたもの（PFI法に基づく民間資金等活用事業推進会議にて決定、内閣府PPP/PFI推進室が発表）
- 水分野の取組みを強化し、上下水道においてウォーターPPPの導入を進め、コンセッションへの段階的移行を推進する**

		R4.6 PFI推進会議決定		R5 アクションプラン		
		5年（R4-8：'22-'26）		5年（R4-8：'22-'26） 重点分野実行計画	10年ターゲット（R4-13：'22-'31）	
No.	重点分野	件数目標	対象施設・契約形態	案件候補	件数目標	対象施設・契約形態（案）
1	空港	3	コンセッション	8	10	コンセッション
2	水道	5	コンセッション等	24	100	ウォーターPPP
3	下水道	6	コンセッション	20	100	ウォーターPPP
4	道路	7	バススタでコンセッション等のPPP/PFI	7	60	バススタをはじめとする <b>道路分野全体</b> （他分野との連携含む）でのPPP/PFI
5	スポーツ施設	10	コンセッション	30	30	コンセッション
6	文化・社会教育施設	10	コンセッション等	30	30	コンセッション等
7	大学施設	5	コンセッション等	15	30	コンセッション、PPP/PFI
8	公園	2	利用料金の設定された公園でのコンセッション	3	30	コンセッションなど公園全体での民間活用
9	MICE施設	10	コンセッション	49	30	コンセッション、PFI
10	公営住宅	10	コンセッション、収益型事業、公的不動産利活用	30	100	コンセッション、収益型事業、公的不動産利活用、PFI
11	クルーズ船向け 旅客ターミナル施設	3*	コンセッション	3	10	コンセッション及び国際旅客船拠点形成港湾制度
12	公営水力発電	3*	公営企業局の経営のあり方検討	2	20	公営企業局の水力発電施設における経営のあり方検討
13	工業用水道	3	コンセッションをはじめとする多様なPPP/PFI	9	25	ウォーターPPPをはじめとする <b>多様なPPP/PFI</b>
	合計	77		230	575	

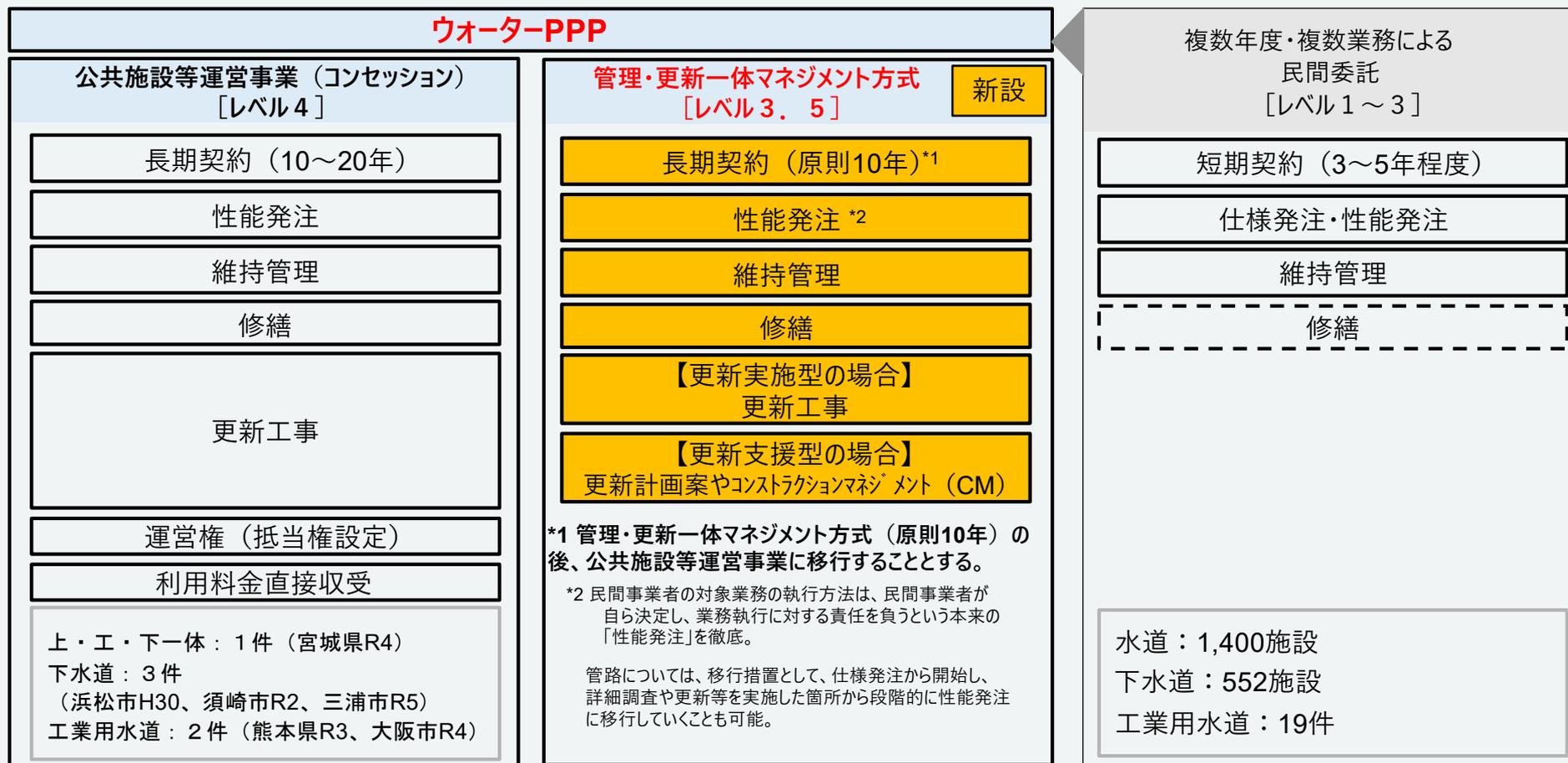
## 9-2. ウォーターPPPが制度化

- 水道、工業用水道、下水道について、PPP/PFI 推進アクションプラン期間の10年間（R4～R13）において、コンセッションに段階的に移行するための官民連携方式（**管理・更新一体マネジメント方式**）を公共施設等運営事業と併せて「**ウォーターPPP**」として導入拡大を図る。

[管理・更新一体マネジメント方式の要件]

①長期契約（原則10年）、②性能発注、③維持管理と更新の一体マネジメント、④プロフィットシェア

- 国による支援に際し、**管路を含めることを前提**としつつ、民間企業の参画意向等を踏まえ、対象施設を決定する。
- 地方公共団体等のニーズに応じて、**水道、工業用水道、下水道のバンドリングが可能**である。なお、**農業・漁業集落排水施設、浄化槽、農業水利施設を含めることも可能**である。
- 関係府省連携し、各分野における管理・更新一体マネジメント方式が円滑に運用されるよう、モデル事業形成支援を通じた詳細スキーム検討やガイドライン、ひな形策定等の環境整備を進める。



# 10. 国内の主なインフラ運営事業

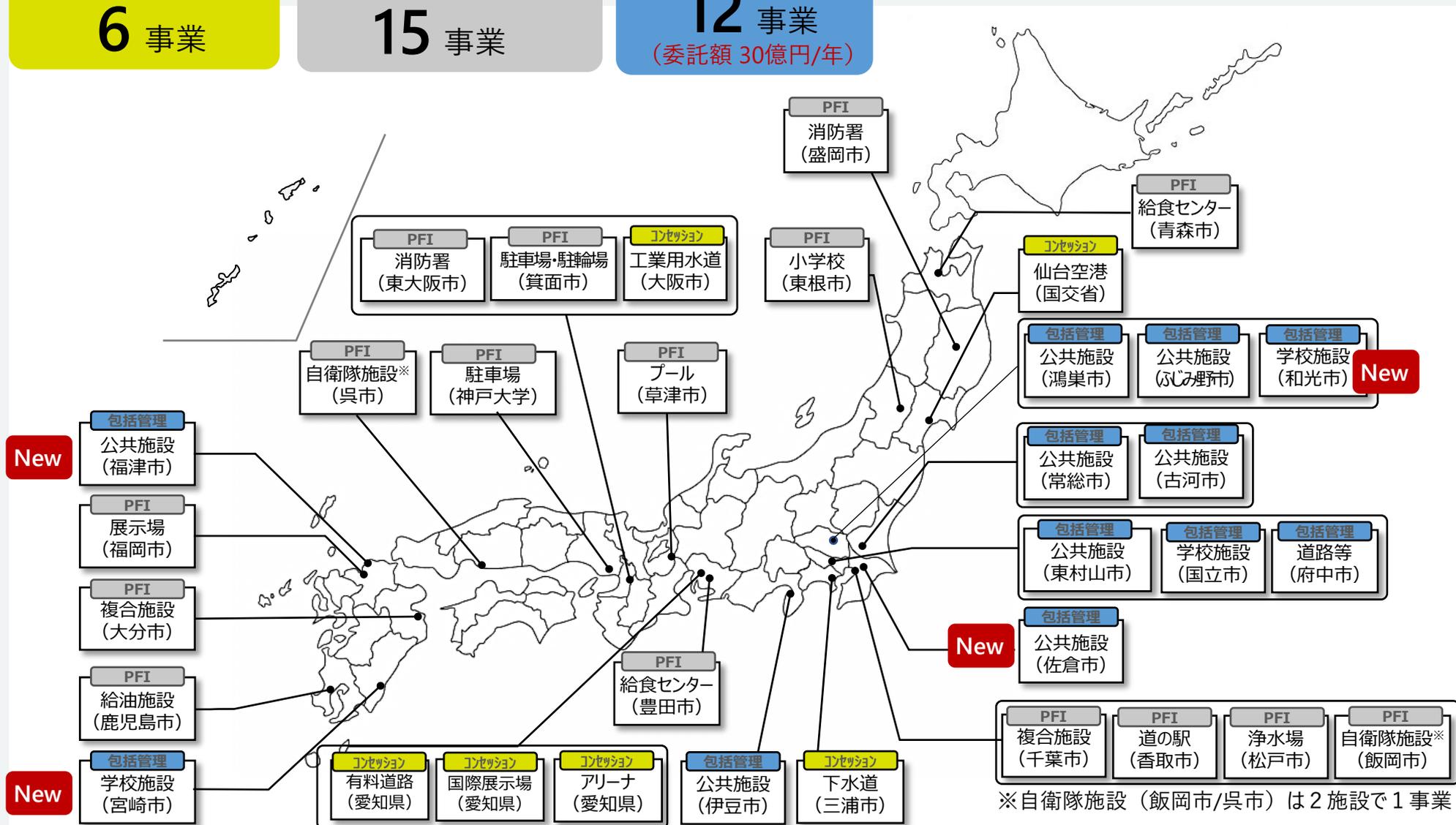
## POINT

- ✓ 様々なインフラサービスにおける確かな実績
- ✓ 包括管理業務により、民間の強みを活かし、効率的な一括管理を実施

コンセッション事業  
**6** 事業

PFI事業 (サービス購入型等)  
**15** 事業

包括的民間委託  
**12** 事業  
(委託額 30億円/年)



## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

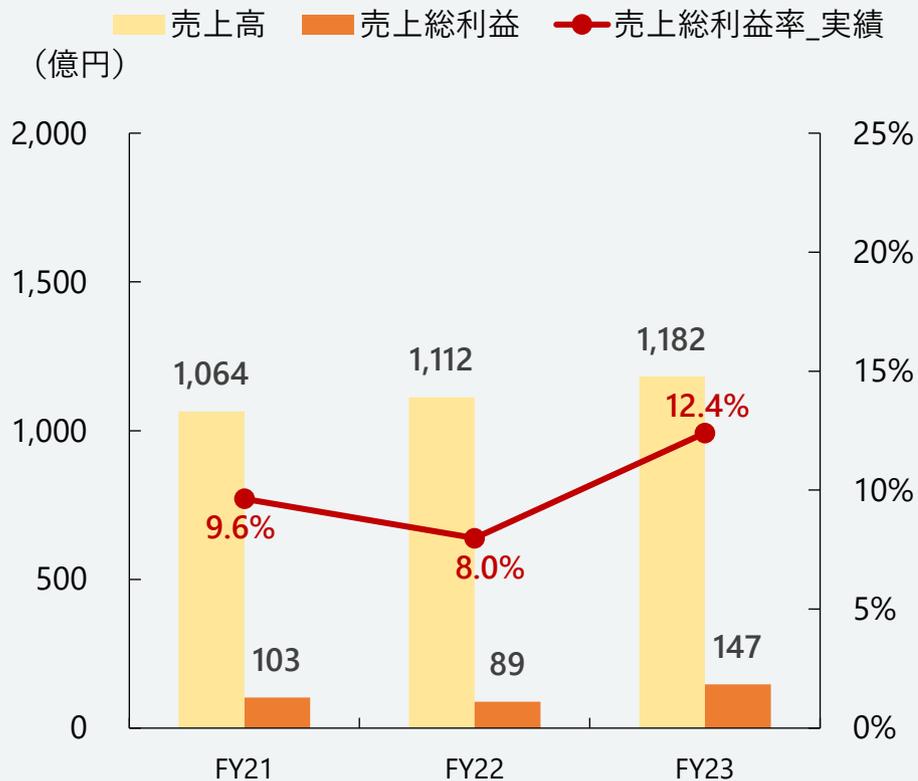
機械

その他

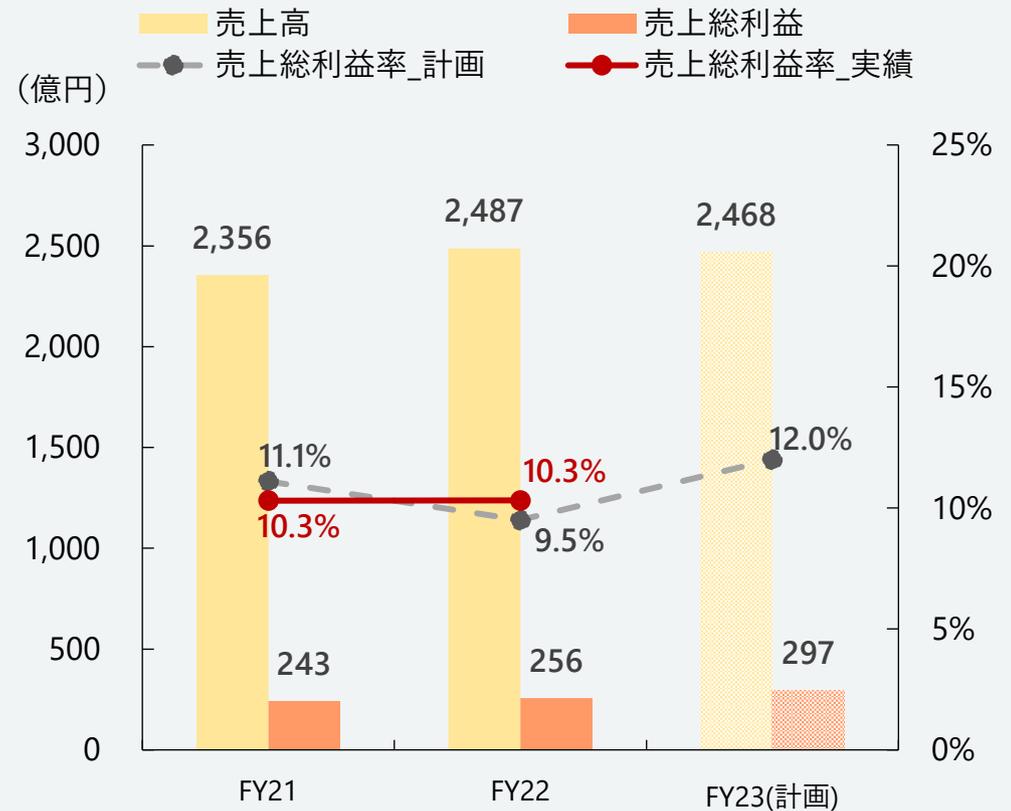
## 11. 舗装セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田道路 連結）

- FY23 2Q 材料費高騰分の価格への転嫁、および豊富な繰越工事により前年同期比増収増益
- FY23通期 建設事業においては売上総利益率を重視した受注活動、製品販売事業においては製造原価の変動を適切に価格転嫁することで、通期計画の達成を見込む

### 第2四半期



### 通 期\*

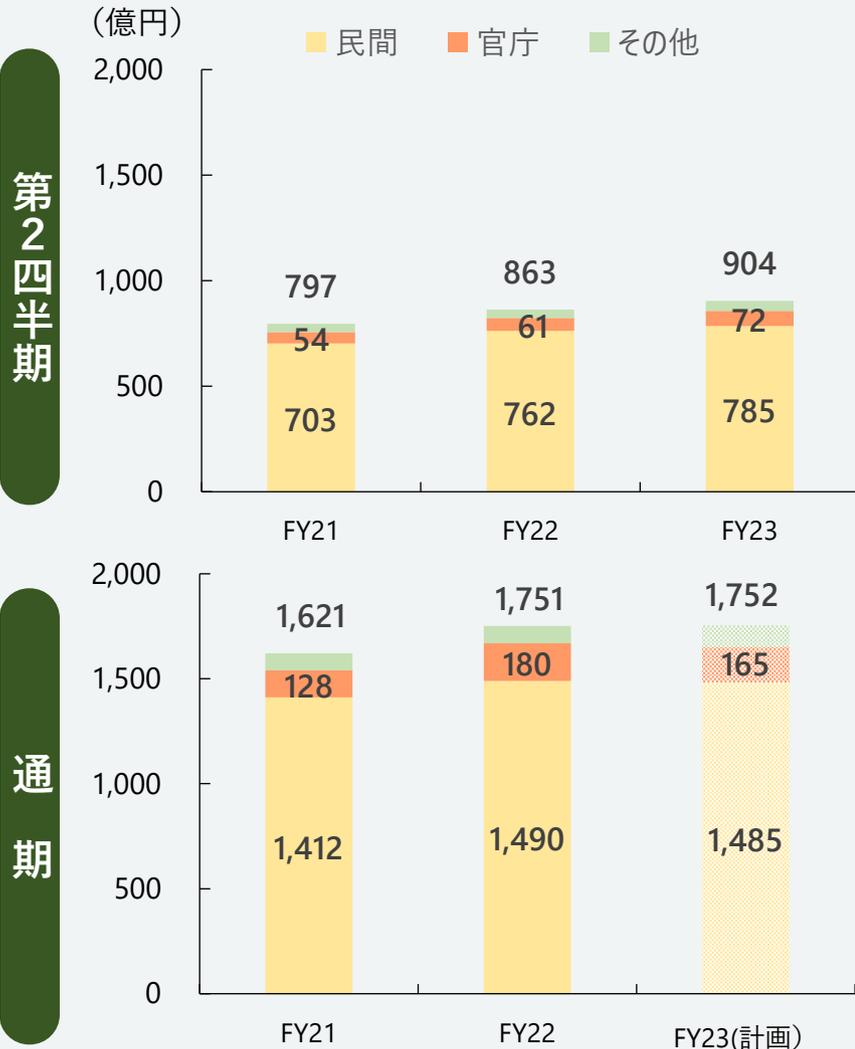


※上記数値は、前田道路の従来の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

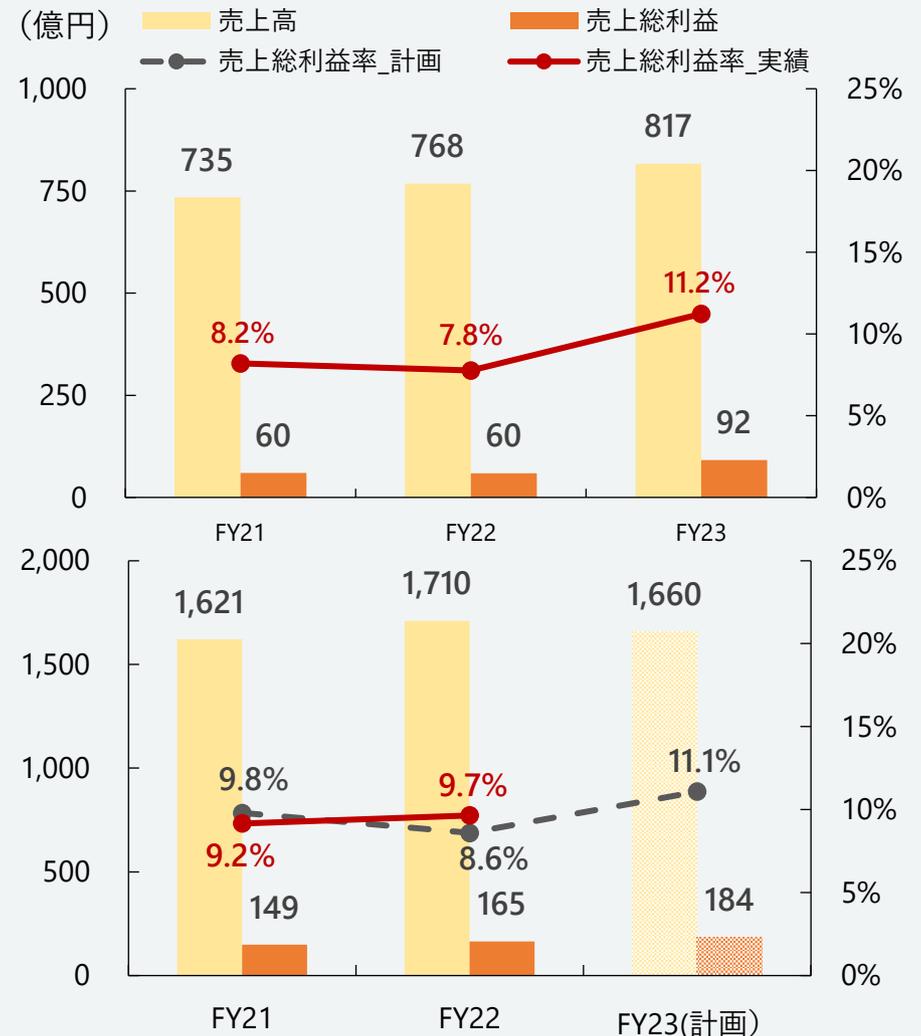
## 12. 舗装セグメント 受注高、売上高、売上総利益の推移（前田道路 連結 建設事業）

- FY23 2Q 材料費高騰分の見積価格反映、および豊富な繰越工事により前年同期比増収増益
- FY23通期 売上総利益率を重視した営業活動を継続することで、利益率向上を目指す

受注高※1



売上高と売上総利益※1



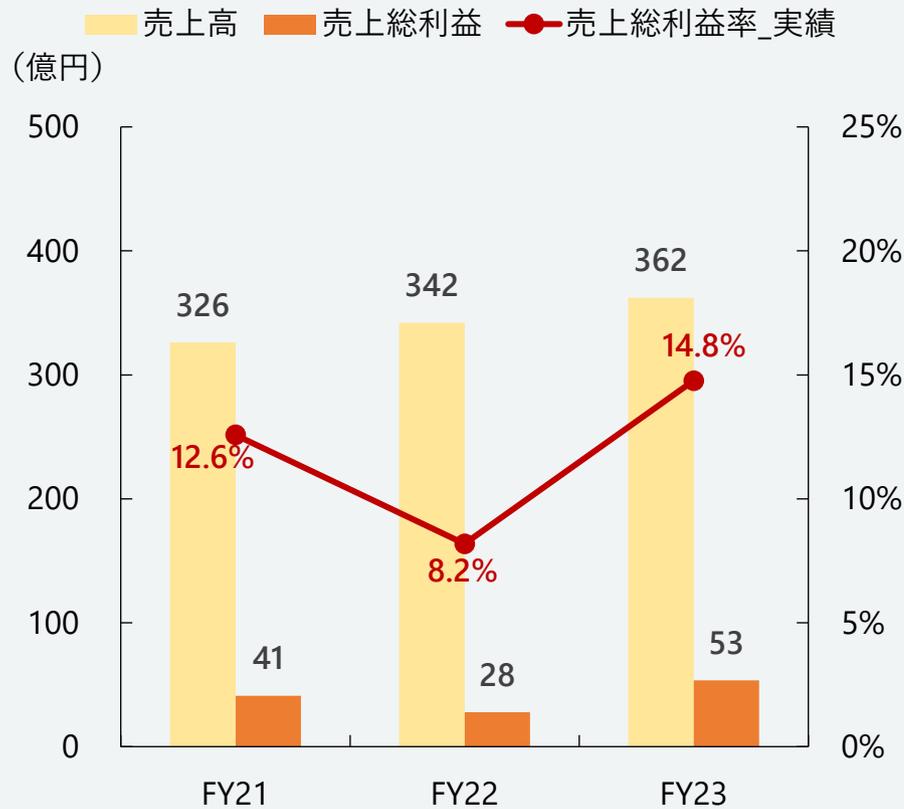
※1 従来の前田道路の連結数値であり、インフロニアグループ内の連結消去を考慮していない

※2 その他：関連会社の受注高（主に官庁工事）及びセグメント内取引消去高

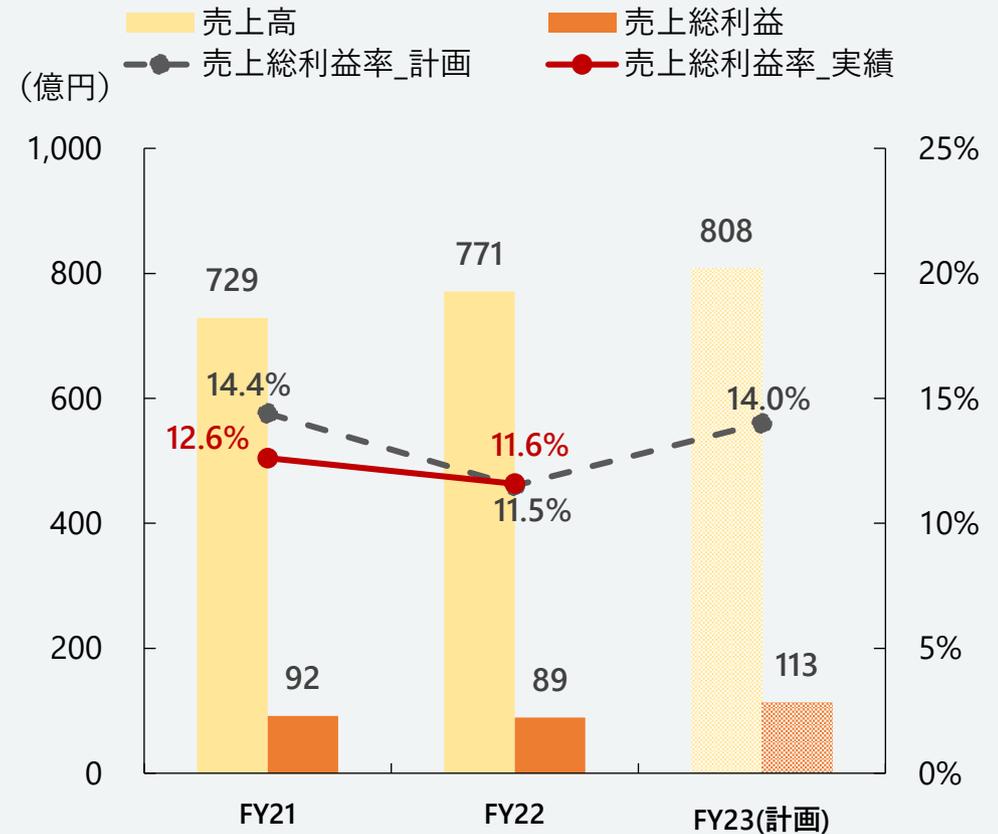
## 13. 舗装セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田道路 連結 製造販売事業）

- FY23 2Q 前期に実施した価格転嫁により、前年同期比増収増益
- FY23通期 都度適切な販売価格とすることで、安定した利益率確保に努める

### 第2四半期



### 通期※



※上記数値は、前田道路の従来連結数値であり、インフロンアグループ内の連結消去を考慮していない

## セグメント別ハイライト

建築

土木

インフラ運営

舗装

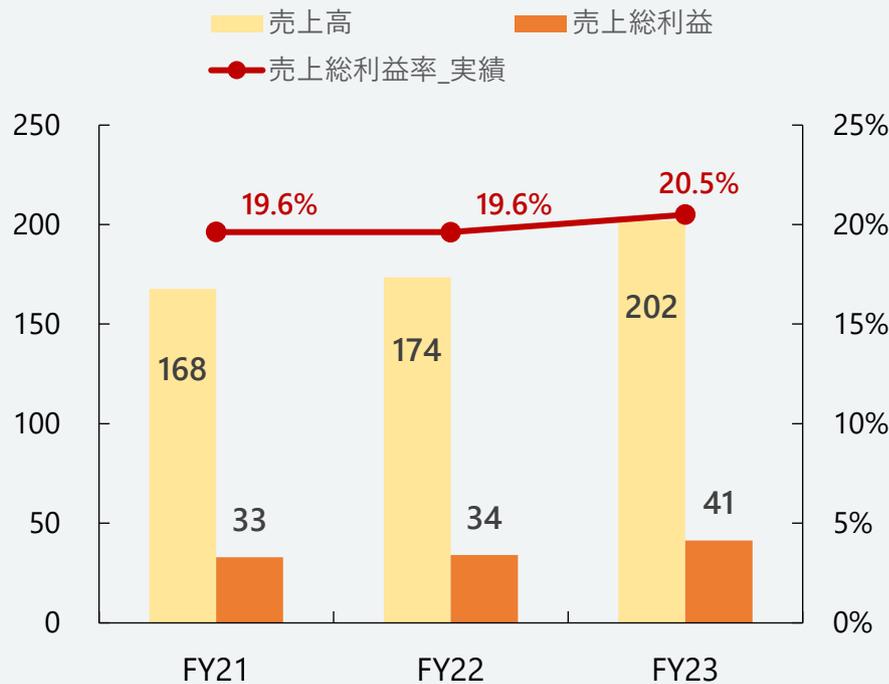
機械

その他

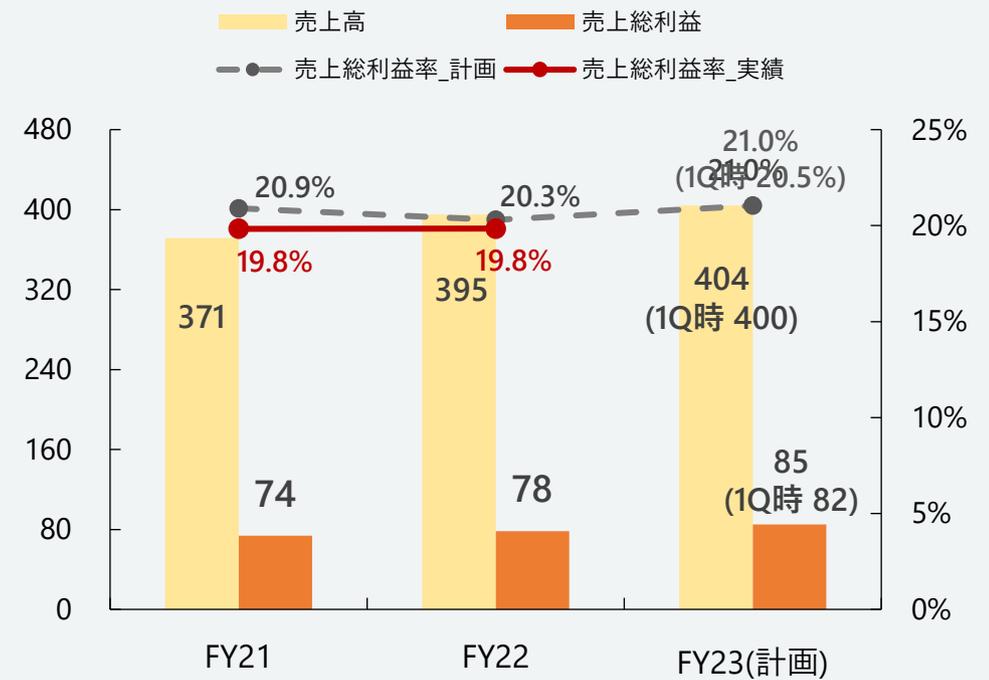
## 14. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移（前田製作所 連結）

- FY23 2Q 自社製品の販売が堅調に推移し、また販売価格の見直し等により、前年同期比増収増益
- FY23通期 売上高、売上総利益共に通期計画を達成する見込み

### 第2四半期



### 通期

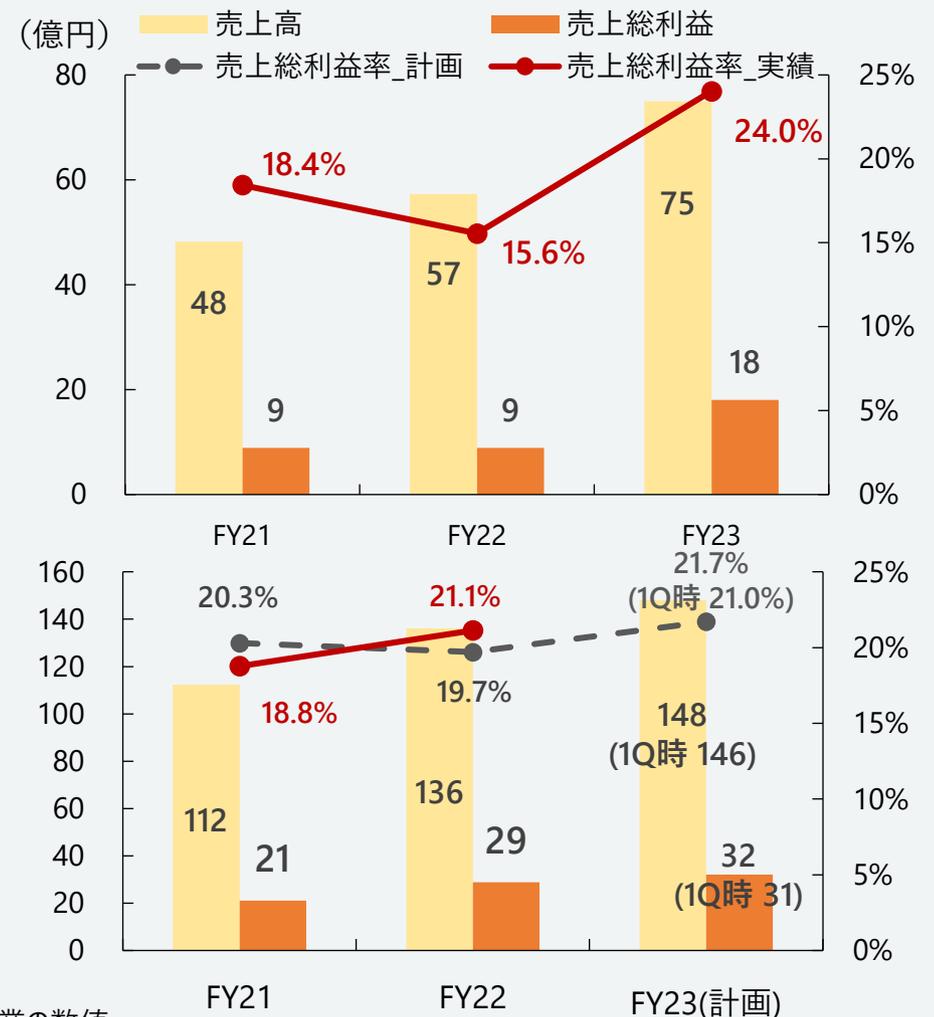
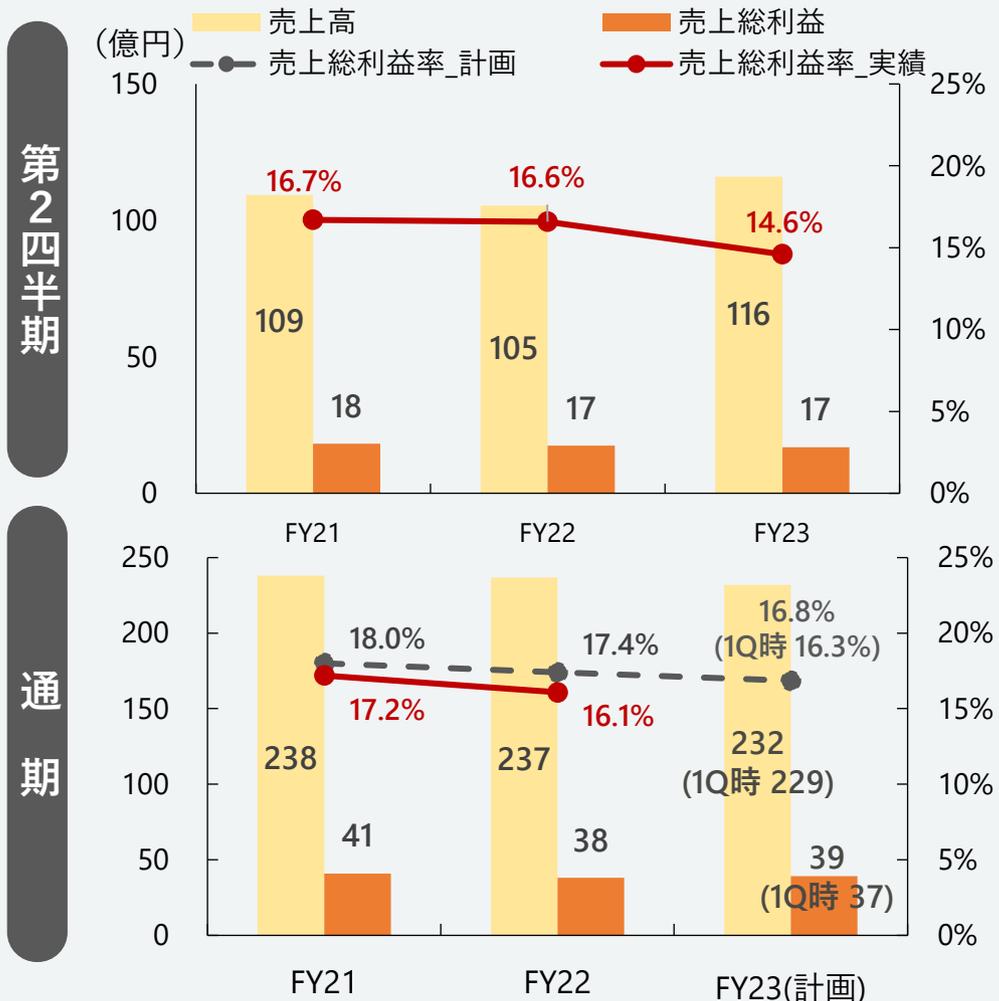


# 15. 機械セグメント 売上高と売上総利益の推移※1（前田製作所 連結 セグメント別）

- FY23 2Q 「かにクレーン」「クロラクレーン」をはじめとする自社製品の販売が堅調に推移し産業・鉄構機械等事業は前年同期比増収増益。また、販売価格の見直し等により、売上総利益率も改善
- FY23通期 足元の受注状況から、通期業績も計画を達成する見込み

建設機械※2

産業・鉄構機械等※3



※1 機械セグメントの内、主要事業である建設機械事業、産業・鉄構機械等事業の数値  
 ※2 コマツ製品の販売・サービス・レンタルを主体とした事業  
 ※3 クレーン等自社製品の設計・製造・販売を主体とした事業

## 16. トピックス：持続可能な森林整備と木材活用に向けた魅力ある製品の市場導入

## POINT

カーボンニュートラル実現に向け、  
集材作業、森林の更新作業に貢献する林業専用フォワーダを発売

## 森林のはたらき

森林はCO2を吸収し、固定するとともに、木材として建築物などに利用することで炭素を長期間貯蔵可能。

## 林業分野の課題

- ・生産性
- ・安全性
- ・林業従事者の高齢化
- ・林業従事者の減少
- etc.

## 機械メーカーの立場からアプローチ

過酷な林内現場に機械化を通してサポート。第1弾として林内にワイヤを張りめぐらせ木を運び出す「油圧式集材機」を市場導入。2023年9月に走行集材機械「フォワーダ」を発売。

2023年度9月新発売

フォワーダ **FC560S**

トラックが進入できない林内で伐採した木材の運搬に役立つ。過酷な林内作業での作業者の安全と快適性に配慮した設計。



# Appendix

## IFRS移行スケジュールと移行に伴う主な変更点について

	FY23				FY24以降
	1Q	2Q	3Q	4Q	
連結業績予想	日本会計基準 & IFRS				IFRS
連結業績	日本会計基準			IFRS※	

※1Q~4Qの累計を4Q決算時に開示

## IFRS移行に伴う主な変更点

(単位：億円)

## 1. のれんの会計処理

日本基準 のれんの償却**あり**  
IFRS のれんの償却**無し**

のれん償却額 (年間)	~FY22	FY23~
		日本会計基準 66

PL上一般管理費(年間)66億円の減少

FY23以降のれんの償却はなくなり、**PL上一般管理費が66億円削減**される

※M &amp; Aにより生じた機械等償却費17億円については残る

## 2. 有形固定資産の減価償却費

償却方法が**定率法から定額法へ変更**となる。

既に取得し定率法を用いていた資産は、過年度に遡って償却方法が定率法から定額法に変更となるが、当社PLへの影響は限定的となる見込み。

## 3. 有価証券

日本会計基準では売却損益をPLに計上するが、IFRSでは**売却損益はPLに計上されない**。

※評価差額の計上を「包括利益計上 (FVOCI)」を選択した場合

## 【個別】前田建設 FY23 2Q実績と通期計画

(億円)

		FY22 2Q実績 (日本基準)	FY23 2Q実績 (日本基準)	前年 同期比
売上高		1,631	1,901	270
建築	計	873	1068	195
	国内	871	1066	195
	海外	2	2	0
土木	計	678	825	147
	国内	679	823	144
	海外	△ 1	3	3
インフラ運営		70	0	△ 70
不動産		10	8	△ 2
売上総利益		275 (16.9%)	307 (16.1%)	32
建築	計	70 (8.0%)	66 (6.2%)	△ 3
	国内	70 (8.0%)	66 (6.2%)	△ 3
	海外	0 —	0 (13.0%)	△ 0
土木	計	131 (19.2%)	238 (28.8%)	107
	国内	121 (17.8%)	237 (28.9%)	116
	海外	9 —	0 —	△ 9
インフラ運営		70 (99.9%)	△ 0 —	△ 70
不動産		5 (47.4%)	3 (36.3%)	△ 2
一般管理費		142 (8.7%)	161 (8.5%)	19
営業利益		133 (8.1%)	145 (7.6%)	12
経常利益		155 (9.5%)	163 (8.6%)	8
当期純利益		145 (8.9%)	115 (6.1%)	△ 30

FY23 通期計画 (日本基準)	FY23 修正計画 (日本基準)	進捗率
4,017	4,257	44.7%
2,385	2,583	41.3%
2,350	2,559	41.7%
35	24	7.7%
1,550	1,650	50.0%
1,546	1,644	50.0%
4	6	45.2%
67	7	0.2%
15	17	47.7%
597 (14.9%)	647 (15.2%)	47.4%
253 (10.6%)	243 (9.4%)	27.3%
250 (10.6%)	241 (9.4%)	27.4%
3 (7.1%)	2 (8.3%)	11.9%
270 (17.4%)	390 (23.6%)	60.9%
271 (17.5%)	390 (23.7%)	60.9%
△ 1 -(16.7%)	0 (0.0%)	—
67 (100.0%)	7 (100.0%)	-0.5%
8 (50.0%)	7 (41.2%)	42.1%
330 (8.2%)	336 (8.4%)	48.1%
267 (6.6%)	311 (7.7%)	46.7%
286 (7.1%)	331 (8.2%)	49.3%
225 (5.6%)	253 (6.3%)	45.5%

## 【連結】前田道路 FY23 2Q実績と通期計画

(億円)

	FY22 2Q実績 (日本基準)	FY23 2Q実績 (日本基準)	前年 同期比	FY23 通期計画 (日本基準)	進捗率
売上高	1,112	1,182	70	2,468	47.9%
建設事業	768	817	49	1,660	49.2%
製造販売	342	362	21	808	44.8%
その他	3	3	0	—	—
売上総利益	89 (8.0%)	147 (12.4%)	58	297 (12.0%)	49.4%
建設事業	60 (7.8%)	92 (11.2%)	32	184 (11.1%)	49.9%
製造販売	28 (8.2%)	53 (14.8%)	26	113 (14.0%)	47.3%
その他	1 (41.1%)	1 (42.2%)	0	—	—
一般管理費	68 (6.1%)	74 (6.2%)	6	157 (6.4%)	46.9%
営業利益	21 (1.9%)	73 (6.2%)	52	140 (5.7%)	52.1%
経常利益	26 (2.3%)	75 (6.3%)	49	140 (5.7%)	53.4%
当期純利益	16 (1.4%)	52 (4.4%)	36	92 (3.7%)	56.3%

## 【連結】前田製作所 FY23 2Q実績と通期計画

(億円)

	FY22 2Q実績 (日本基準)	FY23 2Q実績 (日本基準)	前年 同期比
売上高	174	202	28
建設機械	105	116	11
産業・鉄鋼機械等	57	75	18
介護用品・その他	11	11	0
売上総利益	34 (19.6%)	41 (20.5%)	7
建設機械	17 (16.6%)	17 (14.6%)	△ 1
産業・鉄鋼機械等	9 (15.6%)	18 (24.0%)	9
介護用品・その他	8 (70.7%)	6 (58.8%)	△ 1
一般管理費	28 (16.3%)	30 (15.0%)	2
営業利益	6 (3.4%)	11 (5.5%)	5
経常利益	7 (3.8%)	12 (6.1%)	6
当期純利益	4 (2.4%)	9 (4.5%)	5

	FY23 通期計画 (日本基準)	FY23 修正計画 (日本基準)	進捗率
	400	404	50.0%
	229	231	50.1%
	146	148	50.6%
	24	24	45.5%
	82 (20.5%)	85 (21.0%)	48.7%
	37 (16.3%)	39 (16.9%)	43.4%
	31 (21.0%)	32 (21.7%)	56.0%
	14 (57.3%)	14 (57.3%)	46.6%
	64 (16.0%)	66 (16.3%)	45.9%
	18 (4.5%)	19 (4.7%)	58.3%
	19 (4.8%)	20 (5.0%)	61.3%
	13 (3.3%)	14 (3.5%)	63.3%

# 主なグループ会社のFY23 2Q実績と通期計画

(百万円)

連結子会社	(株)エフビーエス				フジミ工研(株)				(株)JM			
	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画
売上高	8,106	6,804	18,080	15,300	4,056	6,001	12,845	12,746	9,203	11,505	23,000	修正なし
営業利益	258	8	500	130	87	192	260	294	5	108	600	
経常利益	264	18	513	145	113	242	281	343	5	128	620	
当期純利益	195	15	308	90	298	242	216	262	0	94	342	

連結子会社	愛知道路コンセッション(株)				みおつくし工業用水コンセッション(株)				三浦下水道コンセッション(株)			
	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画
売上高	7,151	7,513	15,857	14,995	686	719	1,341	修正なし	-	98	197	修正なし
営業利益	1,306	631	2,433	1,528	126	131	53		-	28	22	
経常利益	700	50	1,287	380	119	125	41		-	25	11	
当期純利益	639	32	1,179	330	72	82	27		-	17	8	

持分法 適用会社	東洋建設(株)				光が丘興産(株)			
	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画	FY22 2Q実績	FY23 2Q実績	FY23 通期計画	FY23 修正計画
売上高	64,503	78,279	168,500	修正なし	1,922	1,926	3,730	3,850
営業利益	2,477	3,253	8,600		314	391	530	560
経常利益	2,426	2,895	8,400		1,381	1,847	2,650	2,680
当期純利益	1,714	1,965	5,600		1,020	1,488	1,846	1,980

## 統合報告書2023～「総合インフラサービス企業」への着実な進化～を発行しました

(発行日：2023年9月21日)

### POINT

- ✓ 社長兼CEO岐部が語る、インフロニアの現在地と今後の展望
- ✓ インフラを取り巻く社会課題に対する、解決に向けたインフロニアの考えと取り組み、それによって実現される未来を価値創造ストーリーで表現
- ✓ 事業会社3社の社長による座談会では、グループ連携によるシナジー創出について語る
- ✓ 更なる企業価値向上に向けた課題とポイントを社外取締役全員から提言

### 統合報告書2023の構成

【Chapter1】価値創造ストーリー

【Chapter2】トップメッセージ

【Chapter3】ビジネスモデル

【Chapter4】成長戦略

【Chapter5】サステナビリティ

【Chapter6】コーポレートデータ



統合報告書2023WEB版は記載の  
QRコード/URLよりダウンロードください。

[https://www.infroneer.com/jp/sustainability/integrated\\_report/](https://www.infroneer.com/jp/sustainability/integrated_report/)



# 「世界に誇る焼物の町の価値向上を目指し、包括連携協定を締結」

## ESG分析を活用した有田町新国富指標の向上に関する包括連携協定を締結しました

**概要：**佐賀県有田町は、日本が誇る伝統工芸品「有田焼」で有名な町ですが、窯業におけるCO<sub>2</sub>排出が大きな課題となっています。こうした課題に対し、**有田町の人的資本、自然資本、人工資本の価値増大を数値化し、検証することにより、ESG経営を実践しながら有田町全体の価値向上を目指します。**  
また、**有田町の持続可能な発展により、近年激化している「自治体間競争」での優位性の確立にも寄与します。**



2023年10月18日に有田町役場町民ホールにて、四社による包括連携協定を締結。

(左から)

- 当社代表執行役社長代理として  
前田建設 常務執行役員支店長  
尾付野誠
- 有田町長 松尾佳昭
- 九州大学都市研究センター長  
馬奈木俊介
- アクロテリオン 代表取締役 下川弘

### 有田町

健康・教育・芸術の価値向上  
地域事業者等のSDGs達成に向けた取組の見える化

### 九州大学都市研究センター

NCCC※1の取組み推進  
aiESG※2 (ESG分析サービス) による検証

### インフロンニア・ホールディングス

インフラ官民連携の推進  
行政効率化・公共サービス高度化

### アクロテリオン

事務局

### 役割

※1 一般社団法人ナチュラルキャピタルクレジットコンソーシアム <https://nccc.earth/>

※2 <https://aiesg.co.jp/>

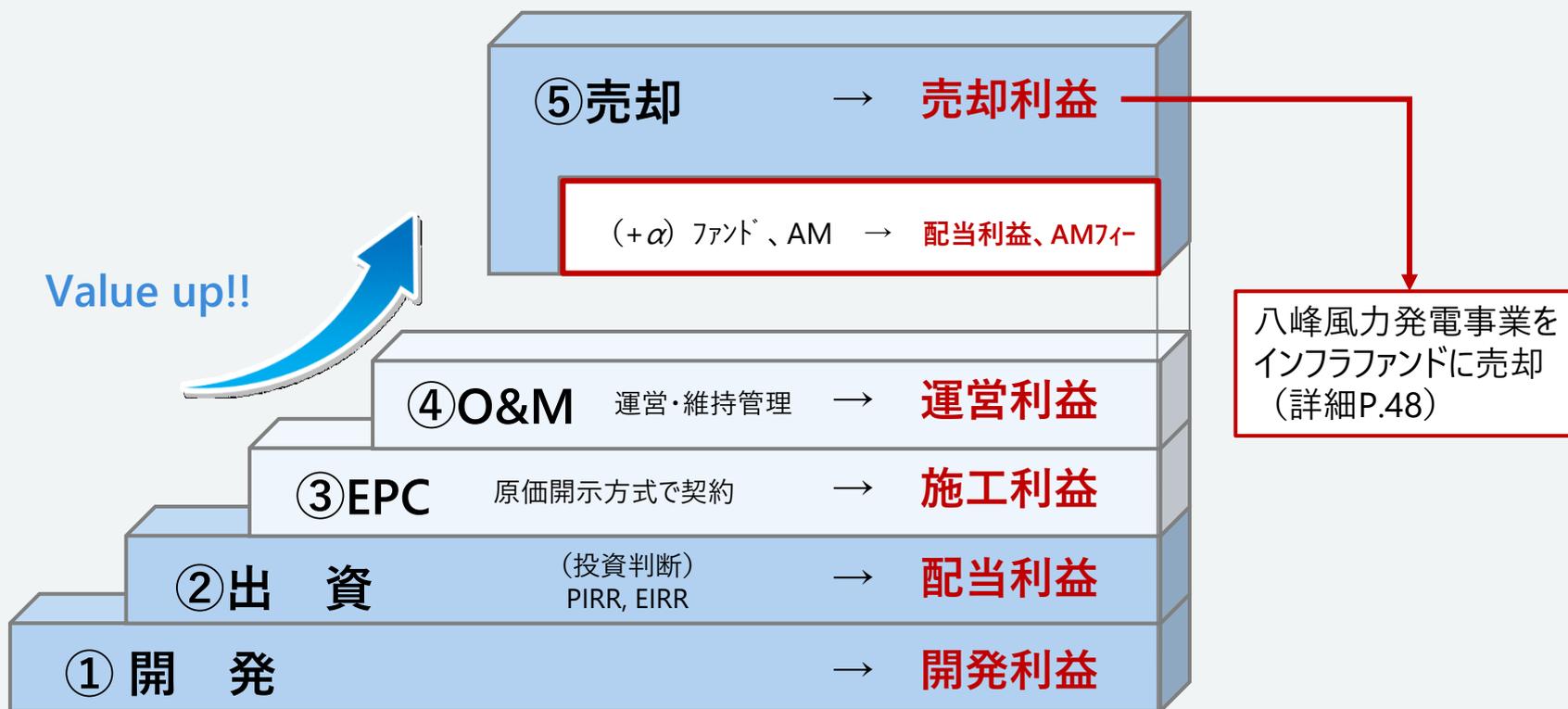


## セグメント分けについて

日本基準（2024年3月期1Q時点）	
建築事業	前田建設工業(株)建築事業（不動産事業を含む）
土木事業	前田建設工業(株)土木事業（不動産事業を含む）
舗装事業	前田道路(株)（連結）
機械事業	(株)前田製作所（連結）
インフラ運営事業	前田建設工業(株)インフラ運営事業 愛知道路コンセッション(株) 匿名組合愛知道路コンセッション みおつくし工業用水コンセッション(株) 三浦下水道コンセッション(株)
その他	(株)JM Thai Maeda Corporation Limited (株)エフビーエス フジミ工研(株)

# インフラ運営事業のビジネスモデル

- インフラ運営事業は、インフラの上流～下流（売却までを含める）までの全ての段階（①～⑤）で、収益を獲得するビジネスモデルである



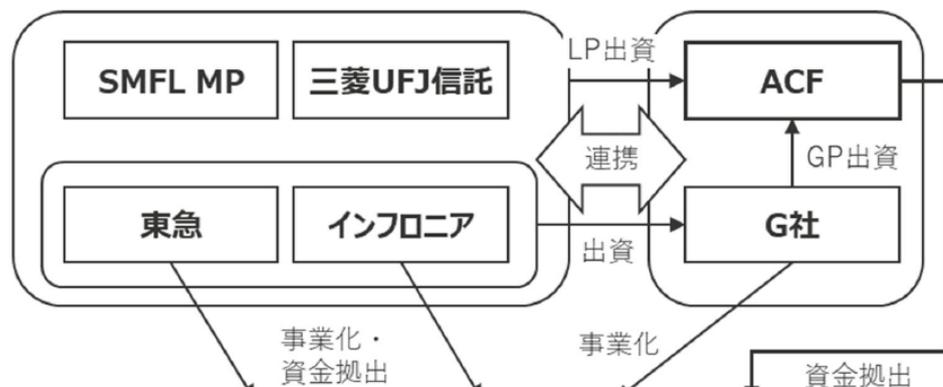
- 事業から5段階 + αで収益を獲得
- 施工ノウハウの強みを活かす（開発、EPC、O&M）

# インフラ運営事業の新たな事業プラットフォームの構築

- 当社は、東急(株)、グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）、三井住友ファイナンス&リース株式会社（「SMFL」）および三菱UFJ信託銀行株式会社と共に、アセット・クリエーション・ファンド・シリーズ（「ACF」）とインカム・ファンド・シリーズ（「ICF」）という2種類のインフラファンドを含む、新たな事業プラットフォームを構築
- PPPや環境エネルギー分野などの近年注目されているインフラ事業領域での、更なる事業展開と国内インフラ資本市場の発展促進を目指す

## <ACFファンド>

### 事業領域 1：国内インフラ事業の事業化/案件化領域



### <インフラ事業現場における案件化&ファイナンス・ニーズ>

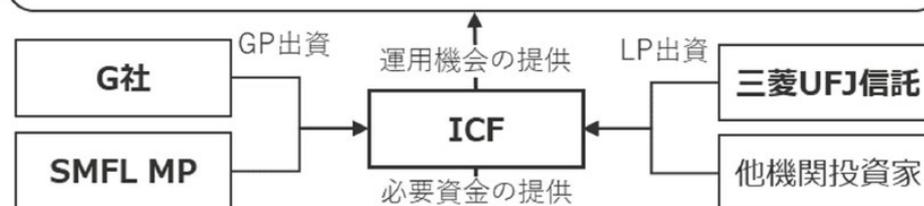
- 柔軟性や機動性の高い資金の需要（開発、公募・入札案件など）
- 事業化やキャッシュフローの安定化まで時間を要する機会
- ルール整備やスキーム作りの支援から求められる機会

## <ICFファンド>

### 事業領域 2：国内インフラ資本市場領域

#### <国内機関投資家の国内インフラ事業分野での資金運用ニーズ>

- 安定的キャッシュフローの獲得
- ファンド運用者/事業者の事業運営能力とバリューアップ能力
- 適正なガバナンスとコンプライアンス



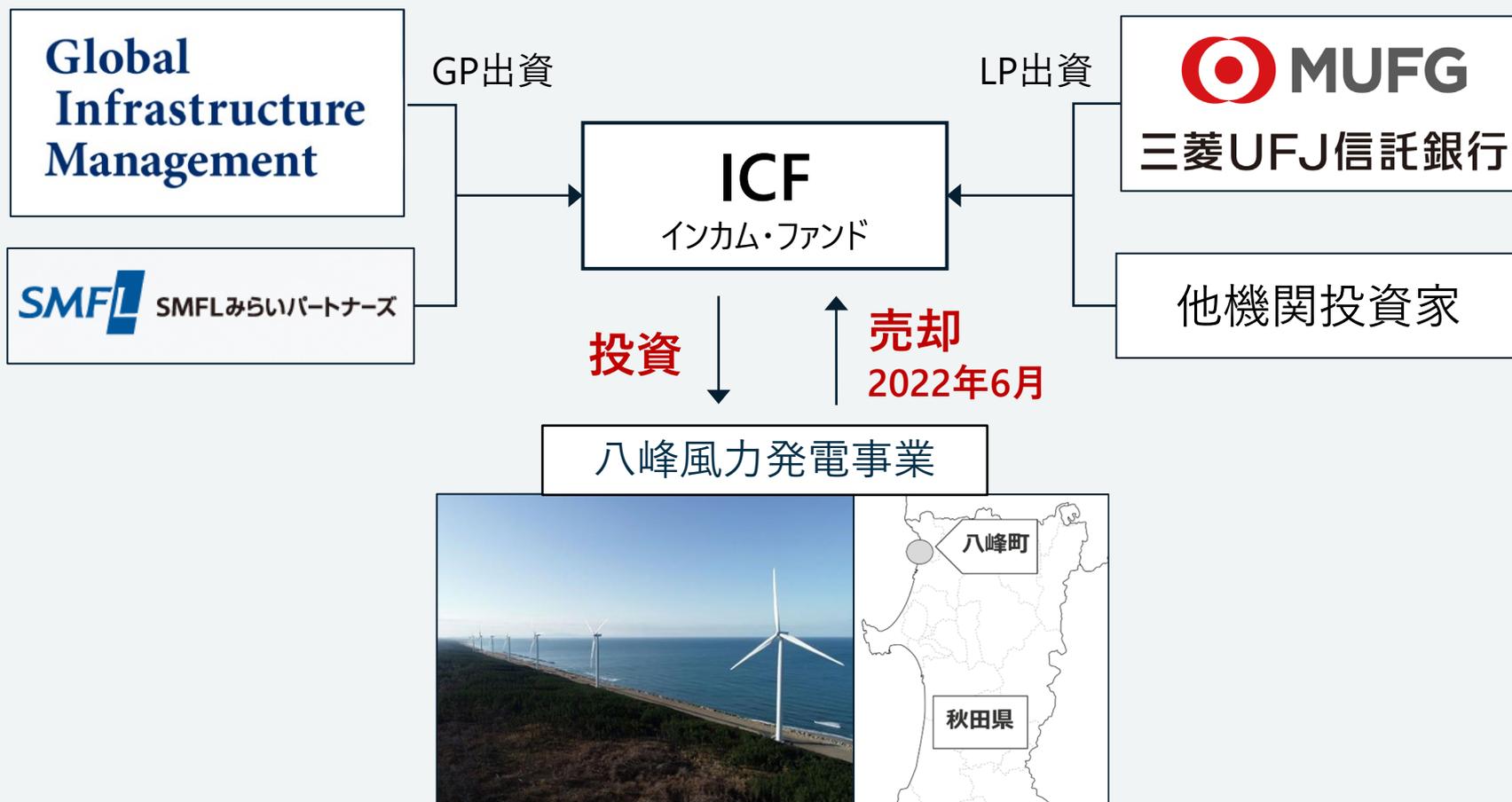
#### <インフラ事業関係者/事業主からのファイナンス・ニーズ>

- 事業の継続性、運営能力と責任感
- 安心感（顔が見える）と長期安定保有（売らない投資家）
- 資金（量）提供能力と資本コスト

2022年7月5日当社プレスリリース『新たなインフラ事業プラットフォームの構築について』より

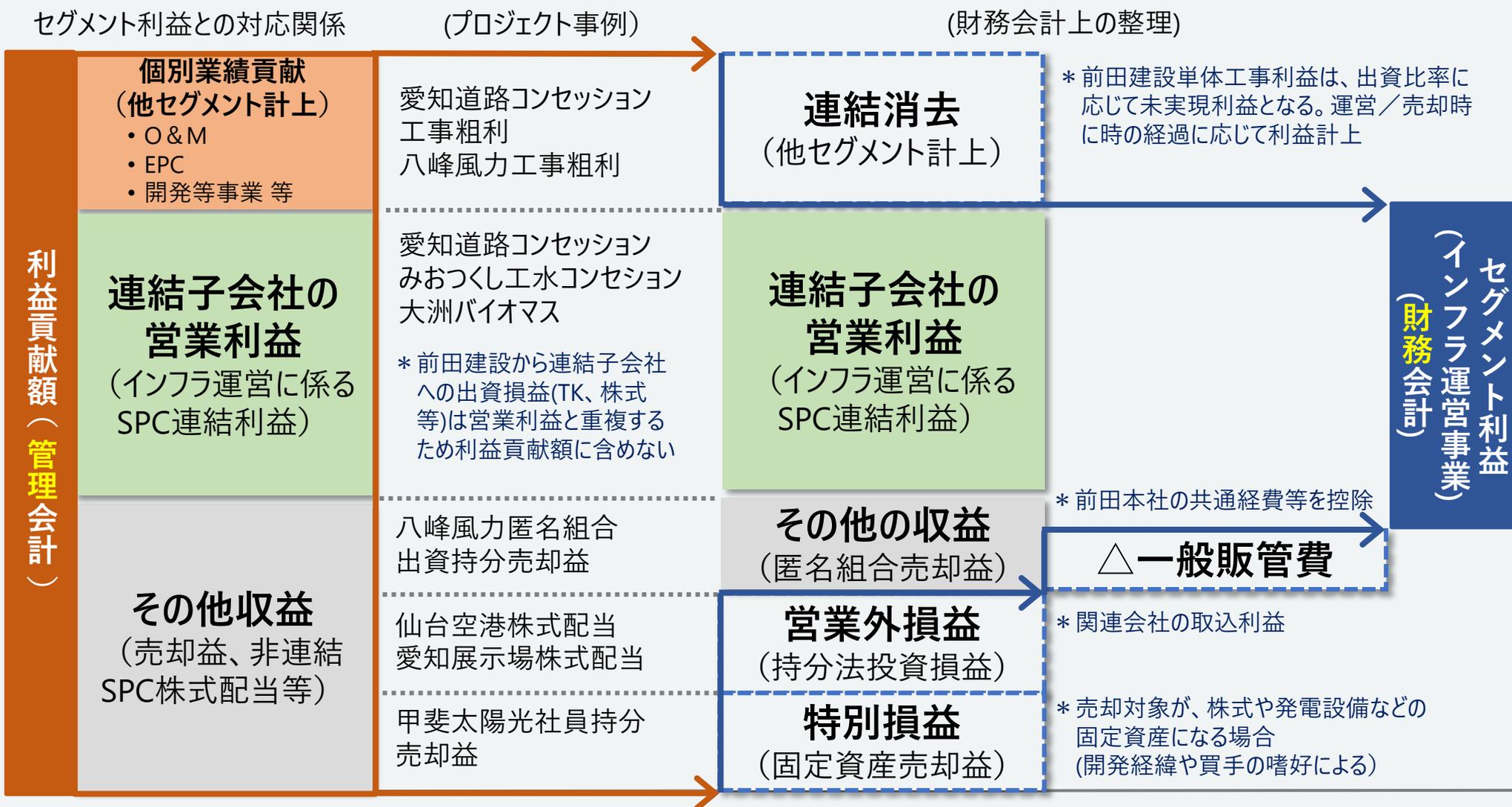
# インカム・ファンドにおける第1号投資案件

- グローバル・インフラ・マネジメント(株)（当社と東急(株)が50%ずつ出資）と、SMFLみらいパートナーズ(株)は、インフラ事業等を投資対象としたインフラファンドであるインカム・ファンド（ICF）を国内機関投資家と共同で組成
- 第1号投資案件として、秋田県八峰町の風力発電事業へ投資



# インフラ運営セグメント「利益貢献額」と「セグメント利益」の違いについて

- 「利益貢献額」は、連結子会社個別の工事粗利、その他収益、営業利益を合計した**管理会計上の実質的な貢献額**。出資比率や売却スキームにより、連結上の利益表示箇所が異なることを考慮したもの
- 連結財務諸表の「セグメント利益(インフラ運営事業)」は、利益貢献額に含まれる工事利益などを連結消去し、管理部門の**共通経費を控除した財務会計上の営業利益**で、営業外/特別損益を計上する前の値



※利益貢献額では、前田本社共通経費等の一般管理費を考慮していない

※1 O&M インフラ施設の運転保守管理業務等

※2 EPC インフラ運営事業に伴う新築工事 大規模修繕工事等

## News 1

# YouTubeチャンネル「馬淵磨理子の株式クラブ」で 昨年11月に引き続き、再び紹介されました！！

【上場企業】インフラで世界を変える、インフラが世界を変える。  
インフロニアHD社長にインタビュー！

経済アナリストの馬淵磨理子氏と当社社長である岐部が対談を行い、  
設立後1年半が経過した当社の実績と戦略について馬淵氏の鋭い  
視点から改めて深掘りして頂きました。

是非ご覧ください！



YouTube

YouTube URL : <https://www.youtube.com/watch?v=ZdTecZUo0uU>



## News2

# インフロニア・ホールディングス 公式Facebook、Instagram



インフラの未来に挑戦するインフロニアの姿  
もっと多くの人に知ってもらいたい、という想いから  
FacebookとInstagramで情報発信を行っています。

ぜひフォロー&いいね！をお願いします！



Facebook

Facebook URL : <https://www.facebook.com/infroneer.hd/>



Instagram

Instagram URL : <https://www.instagram.com/infroneer.hd/>

## News3

# Kibe-log 岐ベログ

インフロニア・ホールディングスが何を考え、どういう社会の  
実現を目指しているのかを全てのステークホルダーにお伝  
えるため、社長の岐部が考えていることを発信していま  
す。



岐ベログ

岐ベログURL : <https://www.infroneer.com/jp/company/topblog.html>

### ～バックナンバー～

- 第5回 : インフラ投資を阻害する名ばかりノンリコースローン
- 第6回 : ガーナ有料道路コンセッションというチャレンジ
- 第7回 : インフロニアが考える「DX」
- 第8回 : 日本のインフラに必要なアベイラビリティ・ペイメント
- 第9回 : インフロニアがめざすデジタルの世界
- 第10回 : チャレンジする社風

**【注意事項】**

本資料に記載されている業績数値は、決算短信の数字を億円単位とし、四捨五入しております。  
また、業績計画等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。

インフラの未来に挑む  
Challenge the status quo

 **INFRAFRONTIER Holdings Inc.**